

2015 年度前期
「教員による授業アンケート」

～調査結果報告～

平成 27 年 12 月

奈良佐保短期大学 自己点検評価室

目次

基礎教養科目

教員 アンケート No.	科目名称	教員名	授業形態	掲載 ページ
1	英語 I	椎野 美知子	演習	1
2	数の世界	古海 忍	講義	2
3	キャリアデザイン	碓 ともみ	講義	3
4	国語表現法	宮川 久美	講義	4
5	社会学	中田 奈月	講義	5
6	人権と差別	馬越 かよ子	講義	6
7	奈良とお茶	北口 照美	演習	7
8	奈良とお茶	黄瀬 邦子	演習	8
9	奈良とお茶	中島 由紀子	演習	9
10	フランス語 I	浅野 友子	演習	10

生活未来科 生活福祉コース 専門教育科目

教員 アンケート No.	科目名称	教員名	授業形態	掲載 ページ
11	医療的ケア II	水野 尚美	演習	11
12	介護概論 I	小木曾 真司	講義	12
13	グリーンプランニング I	寺田 孝重	講義	13
14	グリーンプランニング I	前川 良文	講義	14
15	こころとからだのしくみ II	赤松 香奈子	講義	15
16	コミュニケーション演習	鈴木 千晴	演習	16
17	社会福祉概論	森永 夕美	講義	17
18	相談援助の基盤と専門職	武田 卓也	講義	18
19	相談援助の理論と方法	小川 和代	講義	19
20	点字	福田 佳久子	演習	20

生活未来科 食物栄養コース 専門教育科目

教員 アンケート No.	科目名称	教員名	授業形態	掲載 ページ
21	カラーコーディネート論	中村 妙子	講義	21
22	食事療法実習	須谷 和子	実習	22
23	食品科学	池内 ますみ	講義	23
24	食品学実験	三浦 さつき	実習	24
25	人体の構造と機能 I	毛受 真由美	講義	25
26	専門調理(製菓実習)	箕山 なおみ	実習	26

生活未来科 ビジネスキャリアコース 専門教育科目

教員 アンケート No.	科目名称	教員名	授業形態	掲載 ページ
27	イラストレーション	松河 哲男	演習	27
28	CAD演習	井上 彩	演習	28
29	経理実務 I	谷村 真理	講義	29
30	卒業研究 I	向井 光太郎	演習	30
31	日本企業論	登坂 一博	講義	31
32	日本経済とビジネス	谷村 真理	講義	32
33	ビジネス社会論	東出 加奈子	講義	33
34	ビジネス文書 II	吉村 司	講義	34

地域こども学科 専門教育科目

教員 アンケート No.	科目名称	教員名	授業形態	掲載 ページ
35	音楽Ⅰ	大西 有紀	演習	35
36	音楽Ⅰ	大城 弓恵	演習	36
37	音楽Ⅰ	宮田 眞理	演習	37
38	音楽Ⅰ	山下 玲子	演習	38
39	音楽Ⅰ	吉田 直子	演習	39
40	音楽基礎演習Ⅰ(理論)	河合 摂子	演習	40
41	音楽Ⅲ	中島 倍代	演習	41
42	家庭科教育法	谷口 明子	講義	42
43	教育原理	中村 恵	講義	43
44	教職入門	梶田 萬理子	講義	44
45	算数	重松 敬一	講義	45
46	児童館の機能と運営	小田桐 和代	講義	46
47	児童館の機能と運営	大角 玲子	講義	47
48	児童館の機能と運営	古田 説子	講義	48
49	社会科教育法	廣岡 正昭	講義	49
50	社会的養護内容	山口 直範	演習	50
51	障害児保育	中島 順子	演習	51
52	小児保健 A	早川 淳	講義	52
53	小児保健演習	山本 裕子	演習	53
54	相談援助演習Ⅰ	田中 善大	演習	54
55	造形美術	吉川 れい	演習	55
56	体育	北澤 太野	演習	56
57	特別活動の指導法	中園 大三郎	講義	57
58	保育(健康)	安永 龍子	演習	58
59	保育原理	石田 裕子	講義	59
60	保育表現演習Ⅰ	増井 啓子	演習	60
61	保育(表現・音楽)	奥田 尚子	演習	61
62	保育(表現・音楽)	玉井 奈摘	演習	62
63	保育(表現・音楽)	本間 晶子	演習	63
64	幼児理解	藤田 悦代	演習	64
65	理科教育法	園部 勝章	講義	65

専攻科 福祉専攻 専門教育科目

教員 アンケート No.	科目名称	教員名	授業形態	掲載 ページ
66	家事支援の技法Ⅲ:調理	飯田 晃朝	演習	66
67	生活レクリエーション	遠藤 光子	講義	67

教員による授業アンケート (2015年度 前期)

教員名 : 椎野 美知子 **職名** : 非常勤 **所属** : 全学
科目名称 : 英語 I **科目群** : 基礎教養科目
授業コード : 8305a **授業形態** : 演習 **受講者数** : 20名 **回答者数** : 18名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	17	-	-	1	1	1	-	15	-	-	1

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	5	4.50		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上 11.1%	90分 程度 -	60分 程度 11.1%	30分 程度 22.2%	ほとんど していない 50.0%	無回答 5.6%	◇
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 11.1%	90分 程度 -	60分 程度 11.1%	30分 程度 22.2%	ほとんど していない 55.6%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.72		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった 27.8%	やや 高かった 22.2%	適切 であった 38.9%	やや 低かった 11.1%	非常に 低かった -	無回答 -	◇
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	4.67		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意する 必要は なかった 44.4%	注意 していた 50.0%	ある程度 注意 していた 5.6%	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答 -	◇
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	5	4.61		■				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	3	4.56		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	4.61		■				

1 授業の概要、特徴等

教科書は、留学生や大学生が自分の日常をまとめた英文で紹介する、という内容になっている。受講生は、まず教科書のモデル文を学習し、次にそのモデル文を参考に自分自身のことを紹介する英文を作成する練習をする。その後、他の学生の前でそれを発表することによりコミュニケーション能力を養う。したがって、音読、発音に重点を置いた授業となっている。

2 アンケート結果に対する見解

受講生には何よりもまず「やる気」を持ってほしいので、比較的易しい英文の教科書を使った。結果、ほぼ全員が楽しんで授業に取り組んでくれたように思う。アンケート結果にその成果が表れているのかなと思う。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

授業への取り組み方と、皆の前で発表する勇気と声の大きさに重点を置いて評価したが、小テストを毎回実施して、総合的に評価できるようにも配慮した。小テストで評価が低くても、発表では堂々とできる学生が多くいるのに驚いた。

4 授業改善の方法

今回、とにかく授業に集中していないとポイントが取れない仕組みにした。次回にはもっと工夫をして、全員にどんどん発表させて、もっと活気のある授業にしたい。

教員による授業アンケート (2015年度 前期)

教員名 : 古海 忍 **職名** : 教授 **所属** : 全学
科目名称 : 数の世界 **科目群** : 基礎教養科目
授業コード : 8195 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 29名 **回答者数** : 26名

回答者内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども学科	専攻科福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉コース	食物栄養コース	ビジネスキャリアコース				
	26	-	-	-	13	7	-	6	-	-	-

評価項目	教員の自己評価	学生の評価平均		◇ 教員の自己評価					■ 学生の評価平均				
		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5		
受講態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.15	[Progress bar]					[Progress bar]				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分以上 - 90分程度 19.2%	60分程度 11.5%	30分程度 38.5%	ほとんどしていない 30.8%	無回答 -	[Progress bar]					
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	ほとんど課していない	120分以上 - 90分程度 23.1%	60分程度 23.1%	30分程度 38.5%	ほとんどしていない 15.4%	無回答 -	[Progress bar]					
授業内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	4	4.15	[Progress bar]					[Progress bar]				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや高かった	非常に高かった 11.5%	やや高かった 42.3%	適切であった 30.8%	やや低かった 7.7%	非常に低かった 3.8%	無回答 3.8%	[Progress bar]				
授業の進め方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	4.08	[Progress bar]					[Progress bar]				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意する必要はなかった 11.5%	注意していた 61.5%	ある程度注意していた 26.9%	あまり注意していませんでした -	全く注意していませんでした -	無回答 -	[Progress bar]				
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	4.12	[Progress bar]					[Progress bar]				
総合評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	2	3.69	[Progress bar]					[Progress bar]				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	3.85	[Progress bar]					[Progress bar]				

1 授業の概要、特徴等

数に関する理解を深め、日常生活の中のたくさんの数とその基本的な取り扱いに親しみ、数学的な物の見方や考え方ができる力を身に付ける。数や単位、実用的な計算とその意味を考え、様々な背景と照らし合わせながら、科学的な解釈や思考ができるようになること、図や表などの視覚的な資料を見て、自分なりにその意味を解釈し、また、他者に伝えるためのわかりやすい図や表を自分で作成する技術を身に付けることを目指す。

2 アンケート結果に対する見解

④の「教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)は、授業の理解に役立ちましたか」という設問で評価が低い傾向が見られた。授業用のプリント配付を行っているが、計算問題などを難しいと感じる学生が多く、プリント内では十分に説明できていないものと考えられる。様々な学修経験を持った学生が入り混じっているため、それに配慮したプリントづくりが必要である。また、⑨や⑩については、本授業の目的である有用性、利活用の点で十分に学生の理解が得られなかったことが読み取れる。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

シラバスでの成績評価の基準は、授業態度(30%) 課題(30%) 理解度(40%)である。授業態度は、欠席の場合を減点とし、授業への参加度として評価している。また、授業内の課題の提出状況や内容と授業内での小テストの結果により理解度を測り、成績評価した。

4 授業改善の方法

本来の授業目的である、日常生活における数の利活用について、「この授業は自分の将来に役立つと思いましたか。」の設問評価が低いことが課題である。身近なテーマを題材としたつもりであったが、もう少しわかりやすいテーマを事前に設定するなど、便利さ、重要さに気づける工夫が必要である。

教員による授業アンケート (2015年度 前期)

教員名 : 碓 ともみ **職名** : 非常勤 **所属** : 全学
科目名称 : キャリアデザイン **科目群** : 基礎教養科目
授業コード : 8190abc **授業形態** : 講義 **受講者数** : 117名 **回答者数** : 106名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	102	3	-	1	10	32	2	60	-	-	2

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.23		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 5.7%	90分 程度 0.9%	60分 程度 11.3%	30分 程度 14.2%	ほとんど していない 67.9%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 4.7%	90分 程度 8.5%	60分 程度 11.3%	30分 程度 19.8%	ほとんど していない 55.7%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	4	4.09		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった 11.3%	やや 高かった 26.4%	適切 であった 61.3%	やや 低かった 0.9%	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	4.15		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	ある程度 注意していた	注意す る必要 はな かった 14.2%	注意 してい た 56.6%	ある程度 注意 してい た 26.4%	あまり 注意し てい なかつ た 1.9%	全く 注意し てい なかつ た -	無回答 0.9%	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	4.04		■				
総 合 評 価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.18		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.48		■				

1 授業の概要、特徴等

自分自身のキャリア(人生・仕事)の在り方について考え、自ら計画し決定出来る力を養う。その為に必要な「社会人基礎力とコミュニケーション力」を実践的に教える。人間関係の構築から他者に自分を伝える力・聴く力を養い、社会や人との関わりを正しく理解した上で「自分を表現する」ことを意識させた。授業は、グループワークや実践を多く取り入れたアクティブラーニングを中心に対話型授業を展開する。毎回、席替えをすることによって、誰とでも話し合いが出来る様に工夫した。また、ビジネスマナーにも力を入れた。

2 アンケート結果に対する見解

内容は、生徒が興味を示し参加しやすい身近な題材を授業に取り入れたため、理解出来た様に思える。対話を組み込む授業の中で「自分の意見を他者に伝える」「他者のことを理解する」ことに慣れてきたと思われる。将来を見据えることによって、基本的な生活態度の重要性が分かり、学生生活の過ごし方を考え直す機会になったと感じた。また、グループワークやディスカッションも多く取り入れることで、課題発見力が養い、他者や自己発言から自分を振り返り、前に進む力が育成されたと評価する。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

初めの授業では、人前に立って自分の意見を言うことに慣れていなかったが、徐々に解消され、人前で自己表現出来る様になり、また、グループワークやディスカッションを通して、他者との協働意識が育成された。自己・他者・社会を知ることから真剣に自己のキャリアを考える礎になったことにより、授業目標達成できたと思われる。単位認定・成績評価はシラバス記載通りに公平に評価した。

4 授業改善の方法

PBL(課題解決型学習)を取り入れてきたが、課題発見力が浅いと改善力の弱さが見受けられた。グループ内での温度差を解消していく様なファシリテーション力の強化と改善が挙げられる。また、社会との懸け橋になるように、生徒が主体性を持って取り組める題材をリサーチしていく必要もある。

教員による授業アンケート (2015年度 前期)

教員名 : 宮川 久美 **職名** : 教授 **所属** : 全学
科目名称 : 国語表現法 **科目群** : 基礎教養科目
授業コード : 8110abc **授業形態** : 講義 **受講者数** : 83名 **回答者数** : 72名

回答者 内訳	学 年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	69	3	-	-	-	2	-	70	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.03		◇				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 1.4%	60分 程度 11.1%	30分 程度 45.8%	ほとんど していない 41.7%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 1.4%	60分 程度 11.1%	30分 程度 40.3%	ほとんど していない 47.2%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	4	4.11		◇				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった 6.9%	やや 高かった 41.7%	適切 であった 51.4%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	4.17		◇				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意する 必要は なかった 4.2%	注意 していた 77.8%	ある程度 注意 していた 16.7%	あまり 注意して いなかった 1.4%	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	4.14		◇				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	3.99		◇				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.23		◇				

1 授業の概要、特徴等

2 アンケート結果に対する見解

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

4 授業改善の方法

教員による授業アンケート (2015年度 前期)

教員名 : 中田 奈月 職名 : 教授 所属 : 全学
 科目名称 : 社会学 科目群 : 基礎教養科目
 授業コード : 8145 授業形態 : 講義 受講者数 : 18名 回答者数 : 16名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	-	16	-	-	13	1	2	-	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	5	4.20		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 37.5%	30分 程度 62.5%	ほとんど していない -	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 -	90分 程度 6.3%	60分 程度 25.0%	30分 程度 68.8%	ほとんど していない -	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	1	3.88		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや 高かった	非常に 高かった -	やや 高かった 25.0%	適切 であった 75.0%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	-	4.00		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意する 必要は なかった	注意する 必要は なかった 31.3%	注意 していた 37.5%	ある程度 注意 していた 31.3%	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	4.00		■				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	3.94		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.00		■				

1 授業の概要、特徴等

2 アンケート結果に対する見解

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

4 授業改善の方法

教員による授業アンケート (2015年度 前期)

教員名 : 馬越 かよ子 **職名** : 教授 **所属** : 全学
科目名称 : 人権と差別 **科目群** : 基礎教養科目
授業コード : 8105a **授業形態** : 講義 **受講者数** : 55名 **回答者数** : 48名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	30	18	-	-	10	32	1	4	-	-	1

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	5	4.00		◇				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 2.1%	90分 程度 4.2%	60分 程度 4.2%	30分 程度 22.9%	ほとんど していない 66.7%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 2.1%	90分 程度 4.2%	60分 程度 10.4%	30分 程度 20.8%	ほとんど していない 62.5%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.21		◇				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった 2.1%	やや 高かった 31.3%	適切 であった 66.7%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	4.10		◇				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意する 必要は なかった 8.3%	注意 していた 62.5%	ある程度 注意 していた 27.1%	あまり 注意し てい なかつ た 2.1%	全く 注意し てい なかつ た -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	5	4.00		◇				
総 合 評 価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	3.98		◇				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.21		◇				

1 授業の概要、特徴等

人権や差別を生み出すメカニズムについて、基本的な視点や個別課題の両方からアプローチし、人権問題に対する理解と認識を深める。授業内容や授業を通して気づいたこと等につて、コミュニケーションカードを提出させ、次回に各人の気づきの内容を提供して、他者の考えから新たな発見等、視野を広げさせる。グループディスカッションを、各人の意思表示の場とするとともにディスカッションのまとめを発表して、他者の評価を受ける。

2 アンケート結果に対する見解

科目の性格から、事前事後の具体的なレッスン時間数を表すことは難しいと思われるが、課題に対する個人の発表やレポート等の内容及びグループの発表等から、事前事後のレッスンの取り組みを伺うことができる。人権について、様々な角度から学び、深く知り、考えることができたとして、身近な問題として人権意識の高揚を図る姿勢が培われていると思われる。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

人権や人権問題に対する認識を深めるとともに、「全ての人間の尊厳」を実現する方向に人権感覚や意識の高揚を継続的に図るため、自分自身や社会がどのようにしたらいいかを考察する力を身につけ実践的な行動に踏み出せることを目標とし、自ら「気づき」「考え」「行動する」ことを評価基準とする。受講態度や指定課題30%、科目修了レポート及び人権メッセージ発表(他者評価を含む)70%により総合的に判断して単位認定する。

4 授業改善の方法

7割を超える学生が、問題意識や関心が高まったとし、8割を超える学生が、授業が将来に役立つとしている。残りの学生も含めて、さらに授業効果を高めるために、発表やグループディスカッションなどに身近で今様な問題を加えて、より興味を持たせるよう工夫が必要であると考え。

教員による授業アンケート (2015年度 前期)

教員名 : 北口 照美 **職名** : 非常勤 **所属** : 全学
科目名称 : 奈良とお茶 **科目群** : 基礎教養科目
授業コード : 8116 **授業形態** : 演習 **受講者数** : 22名 **回答者数** : 19名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	18	1	-	-	5	3	-	11	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	5	4.16		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上 5.3%	90分 程度 5.3%	60分 程度 -	30分 程度 31.6%	ほとんど していない 57.9%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上 5.3%	90分 程度 5.3%	60分 程度 -	30分 程度 31.6%	ほとんど していない 57.9%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.32		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった 15.8%	やや 高かった 26.3%	適切 であった 57.9%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	4.42		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	ある程度 注意していた	注意す る必要 はな かった 15.8%	注意 してい た 68.4%	ある程 度注 意し てい た 15.8%	あま り注 意し てい な か つ た -	全 く注 意し てい な か つ た -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	4.32		■				
総 合 評 価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.53		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	4.47		■				

1 授業の概要、特徴等

奈良に関する総合的な知識、特にお茶に関わる内容について、歴史、工芸品、茶の生産、茶と関連する産業について座学にて学ぶ。奈良の特産品である大和茶、茶の種類や淹れ方の体験、日本の茶を理解する。和室において茶道を体験する。抹茶の点て方、お茶のいただき方、お菓子のいただき方、床の間の拝見等の作法について体験を通じ、日本の文化も学ぶことができる。

2 アンケート結果に対する見解

アンケートは、妥当な回答がされていると感じる。受講生の多くは受講態度もよく課題にもまじめに取り組んでいた。授業内容は資料や視聴覚教材、現物サンプル等を使い、実習、試飲、体験を盛り込んだ。このことにより、学生は授業に興味を持って参加し、理解につながったと考える。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

総合評価として奈良とお茶に関する学生の関心が高まり、知識や技術が将来役立つと認識されたことは授業効果が大きかったと評価されてよいと考える。成績の評価は、分担している担当教員ごとにまとめのテストやレポートを課し、最終にはまとめのテストを行った。同時に、実習・体験授業であるため、受講態度も加え総合的に、担当教員の合議により評価した。

4 授業改善の方法

奈良県では、社会的にも奈良とお茶のつながりが注目されてきている。この講義は、日本の文化の理解し、日常生活の作法を身に付け、生活の様々な場面で役立つと考えられる。奈良という地域に関心を持つ契機となるよう、学外諸機関との連携と、学生への体験の機会などを紹介していきたいと考えている。

教員による授業アンケート (2015年度 前期)

教員名 : 黄瀬 邦子 **職名** : 非常勤 **所属** : 全学
科目名称 : 奈良とお茶 **科目群** : 基礎教養科目
授業コード : 8116 **授業形態** : 演習 **受講者数** : 22名 **回答者数** : 19名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	18	1	-	-	5	3	-	11	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	5	4.16		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上 5.3%	90分 程度 5.3%	60分 程度 -	30分 程度 31.6%	ほとんど していない 57.9%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上 5.3%	90分 程度 5.3%	60分 程度 -	30分 程度 31.6%	ほとんど していない 57.9%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.32		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった 15.8%	やや 高かった 26.3%	適切 であった 57.9%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	4.42		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	ある程度 注意していた	注意する 必要は なかった 15.8%	注意 していた 68.4%	ある程度 注意 していた 15.8%	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	4.32		■				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.53		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.47		■				

1 授業の概要、特徴等

○「奈良とお茶」の授業は奈良に関する総合的な知識、特にお茶に係る内容について、歴史、茶の生産、茶と関連する産業について座学にて学ぶ。○お茶の種類や淹れ方の実習、また和菓子について飲み物との関係を体験する。○和室において、抹茶の点て方を体験するとともに、お茶のいただき方、お菓子のいただき方、床の間の拝見等の作法について体験を通じ学生に理解できる内容となっている。

2 アンケート結果に対する見解

○学生の受講態度は概ね真面目であった。事前事後の学習を課していないのでアンケートの学生の反応結果は妥当。○授業内容は資料や視聴覚教材、現物サンプル等を使い、試食や実習や体験を盛り込んだ内容とするなど変化に富み学生の興味や理解を深めるように工夫をした。○授業の進め方は和室での作法体験を担当したので、学生の生活環境を考え初体験者が多いと想定されたので、丁寧に授業を進めたことから学生の理解は得られたと考える。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

○総合評価として奈良とお茶に関する学生の関心が高まり、知識や技術が将来役立つと認識されたことは授業効果が大きかったと評価されてよいと考える。○成績評価はテスト結果と授業態度等について担当者で厳正に協議し合議制で行った。

4 授業改善の方法

○奈良とお茶について興味や関心を持つことが入り口であり学生生活の場面で実践されることを期待したい。

教員による授業アンケート (2015年度 前期)

教員名 : 中島 由紀子 **職名** : 非常勤 **所属** : 全学
科目名称 : 奈良とお茶 **科目群** : 基礎教養科目
授業コード : 8116 **授業形態** : 演習 **受講者数** : 22名 **回答者数** : 19名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	18	1	-	-	5	3	-	11	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	-	4.16		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	-	120分 以上 5.3%	90分 程度 5.3%	60分 程度 -	30分 程度 31.6%	ほとんど していない 57.9%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	-	120分 以上 5.3%	90分 程度 5.3%	60分 程度 -	30分 程度 31.6%	ほとんど していない 57.9%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	-	4.32		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	-	非常に 高かった 15.8%	やや 高かった 26.3%	適切 であった 57.9%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	-	4.42		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	-	注意する 必要は なかった 15.8%	注意 していた 68.4%	ある程度 注意 していた 15.8%	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	-	4.32		■				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	-	4.53		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	-	4.47		■				

1 授業の概要、特徴等

奈良とお茶がテーマの授業で、奈良とお茶が関係している歴史や文化を学習し、実際に奈良のお茶を急須で淹れたり、飲み比べたり、茶道体験する事で、知識と実体験のバランスが取れた授業だと思います。アンケート結果からも「わかりやすかった」「関心が高まった」という生徒が全体平均よりも多く、授業の中でもこれからの実生活や仕事で役立つ情報を自ら質問してくる生徒も目立ちました。

2 アンケート結果に対する見解

「この授業は自分の将来に役立つと思えましたか。」の問いに対して、「あまり思わない」「全く思わない」と答えた生徒が昨年は少なからずいたのに対し、今年度は0人だったので安堵しました。福祉系、幼児教育系のみならず、人として生きる上で「お茶の事を知る事」「奈良の茶文化」を知る事が何かしら役に立つかも知れないと感じただけでもこの授業の成果だと考えます。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

美味しいお茶を飲んだり、お菓子を食ったりしたいという生徒の潜在的な欲望から、そういった事を満たされると同時に有意義な知識が自然とインプットされていったと感じました。ただやはり、もともと食に関心の薄い生徒や、主体的に学ぼうという姿勢のない生徒は成績評価の規準となるテストでも高成績ではありませんでした。それでもアンケートの総合評価で見られるように、全員何かしらつかみ取った様ですので単位認定しました。

4 授業改善の方法

昨年と比べ今年は授業のクオリティが良くなったと感じました。その理由として、昨年より今年度の生徒の方がもともとお茶に対する興味がある割合が多かった事、それから先生方が昨年の経験をふまえて授業内容を簡素化したり、実習と座学の順を組み直したりしたからだと思います。内容は良いので、今回お菓子や着物クリーニング代等先生方がご好意でされているところをきちんと予算内でできるように改善できたらと思います。

教員による授業アンケート (2015年度 前期)

教員名 : 浅野 友子 **職名** : 非常勤 **所属** : 全学
科目名称 : フランス語 I **科目群** : 基礎教養科目
授業コード : 8330 **授業形態** : 演習 **受講者数** : 28名 **回答者数** : 20名

回答者 内訳	学年				学科・コース							
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答	
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース					
	20	-	-	-	-	-	-	-	20	-	-	-

評価項目	教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均					
				1	2	3	4	5	
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	3.30		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上	90分 程度	60分 程度	30分 程度	ほとんど していない	無回答	-
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上	90分 程度	60分 程度	30分 程度	ほとんど していない	無回答	-
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	3.90		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや 高かった	非常に 高かった	やや 高かった	適切 であった	やや 低かった	非常に 低かった	無回答	-
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	3.75		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意する 必要は なかった	注意 していた	ある程度 注意 していた	あまり 注意し てい なかつた	全く 注意し てい なかつた	無回答	-
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	3.72		■				
総 合 評 価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	3.60		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	3.25		■				

1 授業の概要、特徴等

初学者を対象とし、フランス語の簡単な会話表現を練習しつつ、初級文法を学習する。教科書を使用し、概ね教科書に沿って授業を進めるが、受講生の興味・関心を見て、別にプリント等の副教材を活用することもある。

2 アンケート結果に対する見解

教科書に添付されているCDを聴くように促す以外は課題は課していないので、授業時間以外の勉強時間が少ないのは仕方ないことと考えている。今年度の教科書は聴き取り等音声による練習問題が量・レベル共に適切であり、授業中の反応を見ても、受講生がある程度達成感を感じてくれたと思う。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

フランス語の文の構造等、教科書で学んだ事項を理解していること、教科書の文の形を応用して自分の言いたいことが表現できることが、評価の規準となる。手持ちの知識で自分の言いたいことに近づくためにどうすればいいのか考えることは、言葉の意味について深く考え、言葉を大切にすることにつながると思う。

4 授業改善の方法

学生にとって将来の職業に直結するわけではないフランス語の授業は、学生の動機付けを維持・向上させることが何より大事である。毎年教科書の選定には十分配慮しているが、今年度の教科書は音声による課題が適切で活用することができたのは良かったと思う。知らない言語を学んで理解していくこと自体の楽しさを何とか伝えていきたいと思う。

教員による授業アンケート (2015年度 前期)

教員名 : 水野 尚美 **職名** : 講師 **所属** : 生活未来科
科目名称 : 医療的ケアⅡ **科目群** : 生活未来科 生活福祉コース 専門教育科目
授業コード : 1575 **授業形態** : 演習 **受講者数** : 13名 **回答者数** : 13名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	-	13	-	-	13	-	-	-	-	-	-

評価項目	教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均					
				1	2	3	4	5	
受講態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	3.69		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分以上 -	90分程度 -	60分程度 -	30分程度 46.2%	ほとんど していない 53.8%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分以上 -	90分程度 -	60分程度 -	30分程度 69.2%	ほとんど していない 30.8%	無回答 -	
授業内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	3.85		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや 高かった	非常に 高かった -	やや 高かった 69.2%	適切 であった 23.1%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 7.7%	
授業の 進め方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	3.38		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意する 必要は なかった 15.4%	注意 していた 38.5%	ある程度 注意 していた 30.8%	あまり 注意して いなかった 15.4%	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	5	3.38		■				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	3.92		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.15		■				

1 授業の概要、特徴等

介護福祉士の業務に医療的ケアが加えられた。その経緯や意義を理解するとともに、医療職との連携のもとで、医療的ケアを安全・適切に実施できるように、基礎的な知識や技術を修得する科目である。

2 アンケート結果に対する見解

医学的知識を覚えていくことが中心となるため、教科書通りであったり、全般的だったり、学生に興味を持たせることが難しかった。そのことが、自由記述に現れたと考えられる。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

学生全員が授業目標を達成できているとは言い難い。成績評価や単位認定については、授業点や小テストを含めた筆記試験の点数などをもとに、厳正に評価した。

4 授業改善の方法

医療的ケアは、どちらかというと技術系の科目である。しかし、その前に必要な知識としての講義部分を、学生の興味を引く内容にしていくために、もっと、事例に即した項目立てを行う予定である。

教員による授業アンケート (2015年度 前期)

教員名 : 小木曾 真司 **職名** : 助教 **所属** : 生活未来科
科目名称 : 介護概論 I **科目群** : 生活未来科 生活福祉コース 専門教育科目
授業コード : 1205 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 20名 **回答者数** : 20名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	19	1	-	-	20	-	-	-	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.35		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 25.0%	60分 程度 15.0%	30分 程度 40.0%	ほとんど していない 20.0%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上 10.0%	90分 程度 25.0%	60分 程度 25.0%	30分 程度 30.0%	ほとんど していない 10.0%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	4	4.55		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった 15.0%	やや 高かった 50.0%	適切 であった 35.0%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	4.45		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	あまり 注意して いなかった	注意する 必要は なかった 25.0%	注意 していた 75.0%	ある程度 注意 していた -	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	4.55		■				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.45		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.75		■				

1 授業の概要、特徴等

「『介護』について、深く考え、共有する」ことを主眼に、グループワークを多く取り入れ、視聴覚教材の使用、参考文献の紹介と朗読など、感性に働きかけられるような授業を意識した。学生がイメージしやすいように、介護現場での具体例をワークシートに盛り込み、主体的に取り組めるものとした。「覚える」ことよりも「考える」ことに評価をおいた。

2 アンケート結果に対する見解

自由記述の内容から、グループワークに対する一定の評価ができる。また、教材についても、教科書を使う機会は意図的に減らしたが、悪影響にはなっていない。しかし、「考える」ためのグループワークで得た結論に対するの不全感からか、授業レベルの適切さについては大半が高いと感じる結果となったことは、学習意欲促進の観点から、軽視できないと考え、グループワーク手法を検討したい。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

授業の目標に対しては、おおむね達成できたと思うが、学習到達度の個人差も認められ、個別でのフォローアップについては行っていない。自身の介護観について問う内容のレポートや確認テストを実施し、全員について単位を認定できる結果となった。

4 授業改善の方法

使用教材の吟味 グループワーク手法の検討 グループワークテーマの検討 学生への個別アプローチ

教員による授業アンケート (2015年度 前期)

教員名 : 寺田 孝重 **職名** : 非常勤 **所属** : 生活未来科
科目名称 : グリーンプランニング I **科目群** : 生活未来科 生活福祉コース 専門教育科目
授業コード : 1610a **授業形態** : 講義 **受講者数** : 23名 **回答者数** : 21名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	19	2	-	-	19	2	-	-	-	-	-

評価項目	教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均					
				1	2	3	4	5	
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	5	4.48		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 14.3%	30分 程度 52.4%	ほとんど していない 33.3%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 23.8%	30分 程度 57.1%	ほとんど していない 19.0%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	4	4.05		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや 高かった	非常に 高かった 9.5%	やや 高かった 9.5%	適切 であった 76.2%	やや 低かった 4.8%	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	4.38		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	ある程度 注意していた	注意する 必要は なかった 66.7%	注意 していた 23.8%	ある程度 注意 していた 9.5%	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	5	4.33		■				
総 合 評 価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.29		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.43		■				

1 授業の概要、特徴等

前年と同様、資料配布による講義、実習圃場における植物栽培と観察、毎回課題のレポートと植物に関する質問への解答により授業を構成した。中でも質問事項については、個人差は大きいものの、着実に進歩を見せ、教材としても成功であったと思われる。

2 アンケート結果に対する見解

園芸学的内容としては、少し高度な部分もあると思うが、実習活動や観察活動によって植物への興味が生まれた結果を反映したものと理解される。本年度学生には、社会人学生が含まれ、理解度にはややばらつきが多かったようである。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

私の講座の評価は、毎回出すレポート(講義に関すること、植物理解に関すること、私への植物質問)で行なった。本年の学生では、植物に関する質問が回を追って高度になる傾向が見られ、非常に良い効果を持たれた学生の存在を裏付けていた。

4 授業改善の方法

今回実習圃場で使用したチシャの種子は全く発芽がなく、学生はガッカリしたようである。種子としては上級な種子(コーティング種子)であったが、粒数が少なく、この実習には種子数が多い、安価なものの方が良かったようである。

教員による授業アンケート (2015年度 前期)

教員名 : 前川 良文 **職名** : 非常勤 **所属** : 生活未来科
科目名称 : グリーンプランニング I **科目群** : 生活未来科 生活福祉コース 専門教育科目
授業コード : 1610b **授業形態** : 講義 **受講者数** : 23名 **回答者数** : 20名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	18	2	-	-	18	2	-	-	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均					
					1	2	3	4	5	
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.30		■					
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 15.0%	60分 程度 10.0%	30分 程度 35.0%	ほとんど していない 40.0%	無回答 -		
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 25.0%	60分 程度 10.0%	30分 程度 35.0%	ほとんど していない 30.0%	無回答 -		
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	4	4.05		■					
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった -	やや 高かった 10.0%	適切 であった 80.0%	やや 低かった 10.0%	非常に 低かった -	無回答 -		
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	4.00		■					
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意す る必要 はな かつ た 55.0%	注意 して いた 25.0%	ある 程度 注 意 し て い た 15.0%	あ ま り 注 意 し な か つ た 5.0%	全 く 注 意 し て い な か つ た -	無 回 答 -		
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	3.95		■					
総 合 評 価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	5	3.85		■					
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.16		■					

1 授業の概要、特徴等

福祉と園芸を学び、人々に対する効果など素晴らしい魅力と草花や野菜など、植物の栽培管理をとおして多くの人々が心の安らぎや健康、生きがいを感じる園芸の特質を人々の生活の質を高める為の実習等を行い、障がい者や高齢者などの介護やリハビリのために積極的に活用する園芸療法や園芸福祉を具体的に学ぶとともに、福祉社会のニーズに応える産業人を育成し、農園芸分野における障がい者就労支援についても知識と理解を得る。

2 アンケート結果に対する見解

総合評価の回答では自分の新しい知識、将来役立つものと理解できなかった学生もいるので伝え方を工夫し努力をし理解レベルの差をなくすことも必要と思った。今期も毎回授業終了前10分程度のレポート提出で理解度を確認し次回に反映したがアンケートではばらつきが見られた。しかし園芸福祉に興味を持っている学生も多く、もっと時間数を増やし深く伝えていきたいので時間数を増やす事を希望。受講態度については良かった。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

授業態度20% 表能力20% 筆記試験、レポート60% 事前学習が出来るような環境と流れを作りたい。

4 授業改善の方法

講師として学生に伝えたいことは相手を尊敬し信頼する社会人としての基本的マナーや身構え、心構えなどをしっかり持った人材教育とコミュニケーション力を身につける様にする為、事例やワークショップを行い、伝達者でない自分の言葉と熱意で講義を行う。

教員による授業アンケート (2015年度 前期)

教員名 : 赤松 香奈子 **職名** : 非常勤 **所属** : 生活未来科
科目名称 : こころとからだのしくみⅡ **科目群** : 生活未来科 生活福祉コース 専門教育科目
授業コード : 1555 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 20名 **回答者数** : 20名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	19	1	-	-	20	-	-	-	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	5	4.35		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 25.0%	30分 程度 35.0%	ほとんど していない 40.0%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 5.0%	90分 程度 5.0%	60分 程度 40.0%	30分 程度 25.0%	ほとんど していない 20.0%	無回答 5.0%	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	4	4.80		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった 20.0%	やや 高かった 15.0%	適切 であった 60.0%	やや 低かった 5.0%	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	4.65		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	ある程度 注意していた	注意する 必要は なかった 35.0%	注意 していた 65.0%	ある程度 注意 していた -	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	4.53		■				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	5	4.50		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.75		■				

1 授業の概要、特徴等

人体解剖学を生活面から問題提起することで、より身近に学べるよう配慮した。学んでいることがすべて、今、実際に自分のからだが生きていて働いていることを実感できるように説明をした。講義はプリントに必要事項を書き込む形式を取り入れており、解剖学特異な語句や漢字にも慣れてもらうようにした。講義の前には前回の授業範囲の小テストを行い、復習ができるようにした。

2 アンケート結果に対する見解

学生個人のレベルの差もあるため、全員が満足する結果はなかなか得られないと思うが、多くの学生にとって有意義な講義であったと思う。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

授業毎に行われる小テストと学期末テストで成績評価している。最低限身につけて欲しい知識を講義内で詳しく説明した上で、学期末テストであり、評価基準(60点)に達しない学生については、今後介護福祉士として働く上で目標達成できていないと考え、評価した。

4 授業改善の方法

もっと踏み込んだ内容についても学びたいという意見があったが、講義時間内では限界があるため、自己学習できるようなプリントなどの教材を別途用意したいと思う。

教員による授業アンケート (2015年度 前期)

教員名 : 鈴木 千晴 **職名** : 非常勤 **所属** : 生活未来科
科目名称 : コミュニケーション演習 **科目群** : 生活未来科 生活福祉コース 専門教育科目
授業コード : 1105 **授業形態** : 演習 **受講者数** : 59名 **回答者数** : 47名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	47	-	-	-	19	27	1	-	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.21		■ ◆				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 2.1%	90分 程度 4.3%	60分 程度 6.4%	30分 程度 23.4%	ほとんど していない 63.8%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 2.1%	90分 程度 6.4%	60分 程度 10.6%	30分 程度 19.1%	ほとんど していない 61.7%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	2	3.83		■ ◆				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった 4.3%	やや 高かった 19.1%	適切 であった 74.5%	やや 低かった 2.1%	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	4.15		■ ◆				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	ある程度 注意していた	注意する 必要は なかった 12.8%	注意 していた 36.2%	ある程度 注意 していた 42.6%	あまり 注意して いなかった 6.4%	全く 注意して いなかった 2.1%	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	3.98		■ ◆				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	3.98		■ ◆				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	4.11		■ ◆				

1 授業の概要、特徴等

コミュニケーション技術の向上と他コースの学生との交流を目標とした演習形式の授業であった。グループワークと振り返りが中心だったが、コミュニケーションとは何か、また社会で必要とされるコミュニケーション能力とは何かについて知識を伝達することもあった。特にキャリアについての見通しと、それを踏まえた上での自分に欠けているコミュニケーションスキルを考えさせるようにし、将来役立つ内容を心掛けた。

2 アンケート結果に対する見解

学生の意識に差があり、年齢も様々な中でじょうきの目標を達成するためには内容に工夫を要することが多かった。一限の必修授業でありコミュニケーションに強い苦手意識をもつ学生もいたことから、授業運営に困難を感じることも多かった。それを考えると、概ね全体の平均と差がなく、工夫が功を奏したと考えられる。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

評価は毎回のプリント記入と、最終回の振り返りレポート及び出席率の合計によって行った。毎回のワークへの参加度、及びレポートでの考察の内容を重視した。具体的には、ワークの内容だけでなく、それが自分にとってどのような意味があるのかを考えることができているものを高く評価した。

4 授業改善の方法

前述の通り、このままの主旨で同様の内容にするのであれば人数や時限などについて考慮が必要であると思われる。また、講義の位置付けや内容についての説明をより多く行うことも必要であるだろう。

教員による授業アンケート (2015年度 前期)

教員名 : 森永 夕美 **職名** : 准教授 **所属** : 生活未来科
科目名称 : 社会福祉概論 **科目群** : 生活未来科 生活福祉コース 専門教育科目
授業コード : 1115 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 23名 **回答者数** : 23名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	19	4	-	-	23	-	-	-	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.26		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 4.3%	60分 程度 26.1%	30分 程度 43.5%	ほとんど していない 26.1%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 13.0%	60分 程度 34.8%	30分 程度 39.1%	ほとんど していない 13.0%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	4	4.43		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや 高かった	非常に 高かった 13.0%	やや 高かった 56.5%	適切 であった 30.4%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	4.04		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意する 必要は なかった	注意する 必要は なかった 17.4%	注意 していた 69.6%	ある程度 注意 していた 13.0%	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	4.14		■				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.22		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.57		■				

1 授業の概要、特徴等

日本の現状と課題を知り、様々な社会福祉の仕組みに関することを学ぶ授業である。概論であるので、一つ一つの制度について詳しく述べるのは各専門科目にまかせ、大まかに日本の社会制度について理解してもらうにとどめている。

2 アンケート結果に対する見解

入学前の経歴に差があり、日本の歴史や社会制度に対し全く知識のない者には用語の解説から必要であり、詳しく知っている者にとっては満足できない面があったと考える。自分たちで調べるグループワークは概ね好評であり、今後も自分たちで調べ互いに日本の社会制度について話し合う機会を作っていきたいと考える。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

目標等変更なし。成績評価については、理解度をテストでの評価だけでなく、プレゼンテーションに関する評価を入れていく。

4 授業改善の方法

法律や専門用語に関しては各自で予習しておくように勧める。個別指導はオフィスアワーの時間など周知させていく。

教員による授業アンケート (2015年度 前期)

教員名 : 武田 卓也 **職名** : 非常勤 **所属** : 生活未来科
科目名称 : 相談援助の基盤と専門職 **科目群** : 生活未来科 生活福祉コース 専門教育科目
授業コード : 1705 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 5名 **回答者数** : 5名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	5	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	5	5.00		◇				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 -	30分 程度 20.0%	ほとんど していない 80.0%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 -	30分 程度 20.0%	ほとんど していない 80.0%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.80		◇				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや 高かった	非常に 高かった 20.0%	やや 高かった 40.0%	適切 であった 40.0%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	5.00		◇				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意する 必要は なかった	注意する 必要は なかった 100.0%	注意 していた -	ある程度 注意 していた -	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	5.00		◇				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	3	4.80		◇				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	5.00		◇				

1 授業の概要、特徴等

相談援助に関する諸理論、実践で活用できるように心がけ、視覚的教材(パワーポイント、写真、新聞記事等)を活用しながらソーシャルワークの基礎的知識を養う授業を展開した。また、授業内において、学生の理解力を高めるためにコミュニケーションを行う場の設定と議論を2回程度活用した授業展開を実施した。

2 アンケート結果に対する見解

授業担当教員として、昨年度の反省を踏まえ、レポート課題の提出、小テストの定期的な実施を行ってきたが、事前学習、事後学習については課題という形で出したにも関わらず、それがアンケート内容に反映されなかった。これは学生に課した課題の内容のレベルの問題と考えるため、課題のレベルを高めていきたい。また、事前、事後学習に取り組むように授業と課題を連動させた授業展開を工夫したいと考える。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

本授業では、シラバスに沿って、テキストを用いながら授業展開を図ったが、授業の進行上、柔軟に対応しなければならない点があった。そのため、授業目標を計画通りに進めることができなかったことがあった。しかし、最終的には授業目標の達成は図ることができたと考えている。単位認定については、本授業は、平常点(受講姿勢、課題の提出などを含む)30% 小テスト20% 筆記試験50%とし、総合評価として単位認定を行った。1年生はまじめに授業に取り組み、小テストにも真剣さが見られた。今後は、学生の学び、さらなる学習意欲を高めることを考え、各々の評価の割合を見直していきたい。特に筆記試験の割合を10%程度高めることが必要だと考えている。

4 授業改善の方法

アンケート結果より、授業内容について非常に高かった、やや高かったの割合をあわせると60%になっている。しかし、卒業後、実務経験を経験した際に国家試験を受験できる知識を身に付けることができるラインは維持しつつ、授業内容の工夫を行う必要があると考えている。特に、本年度は活用があまりできなかったグループワークを用いて、グループ学習、グループ内での議論等を踏まえ、グループダイナミクスを活用した授業展開を実施することが必要だと考えている。

教員による授業アンケート (2015年度 前期)

教員名 : 小川 和代 **職名** : 非常勤 **所属** : 生活未来科
科目名称 : 相談援助の理論と方法 **科目群** : 生活未来科 生活福祉コース 専門教育科目
授業コード : 1710 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 4名 **回答者数** : 4名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	-	4	-	-	-	-	-	4	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均					
					1	2	3	4	5	
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.50		■					
	② 事前学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 -	30分 程度 -	ほとんど していない	無回答	100.0%	-
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 -	30分 程度 -	ほとんど していない	無回答	100.0%	-
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	4	4.75		■					
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった -	やや 高かった 25.0%	適切 であった 75.0%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答	-	-
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	4.75		■					
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意する 必要は なかった	注意する 必要は なかった 75.0%	注意 していた -	ある程度 注意 していた 25.0%	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答	-	-
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	5.00		■					
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.25		■					
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	4.50		■					

1 授業の概要、特徴等

基本的に授業計画の内容にそって、学生主体の参加型学習をすすめる。そのため、事例を活用し、学生自身が実感を持って理解できるよう努めた。到達目標としては、相談援助の基本となる理論を理解し、利用者と利用者をとりまく環境について社会福祉士としての支援方法を身につけること。また、本講義で学んだ理論や方法を実習や演習の場で活用できるよう、継続的な学びの土台作りをすることにおいた。

2 アンケート結果に対する見解

学生が主体的に取り組める参加型学習を進めた点や、保育の現場におけるソーシャルワークについて事例を通して授業を進めた点が、単なる知識としてではなく、学生の関心と理解に繋がったと感じる。また、面接場面の演習などは実践をイメージすることと共に、その難しさを感じるきっかけになったと感じた。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

相談援助の基本となる理論を理解し、支援方法を身につけるという到達目標に対しては、援助過程の展開を理解することはできた。評価については、試験の結果と合わせて(70%)、出席や授業時の演習への参加などの取り組む姿勢(30%)を対象とした。結果、受講者全員の単位取得を認めた。

4 授業改善の方法

今回の課題としては、①事例等を活用した授業により、より学習意欲を高める事と合わせて、映像教材を取り入れ、イメージを持つことができるようにすることであると感じた。グループワークなどを一層活用し、学生が主体的に授業に取り組む場面を多くすることが必要であると考えている。

教員による授業アンケート (2015年度 前期)

教員名 : 福田 佳久子 **職名** : 非常勤 **所属** : 生活未来科
科目名称 : 点字 **科目群** : 生活未来科 生活福祉コース 専門教育科目
授業コード : 1256 **授業形態** : 演習 **受講者数** : 14名 **回答者数** : 11名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	-	11	-	-	11	-	-	-	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	3.55		■ ◇				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 18.2%	30分 程度 45.5%	ほとんど していない 36.4%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 27.3%	30分 程度 63.6%	ほとんど していない 9.1%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.09		■ ◇				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった 9.1%	やや 高かった 27.3%	適切 であった 63.6%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	4.27		■ ◇				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意する 必要は なかった	注意する 必要は なかった 9.1%	注意 していた 27.3%	ある程度 注意 していた 54.5%	あまり 注意して いなかった 9.1%	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	5	3.91		■ ◇				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	3.91		■ ◇				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	4.00		■ ◇				

1 授業の概要、特徴等

点字の読み書きができるようになることが、授業の目標である。授業では、実際に点字器を使い点字を書いたり、点字を読んだりしながら、点字表記の基本的なルールを学ぶ。

2 アンケート結果に対する見解

毎週、1時間程度かかる課題を出していたが、アンケート結果では、予習・復習の時間が少なかった。課題に間違いが多いのはその所為かもしれないと思う。添削して返すだけでは真剣に取り組んでくれないのかも知れない。ただ、自由記述で「点字の紙を増やして欲しい」とあったので、「もっといる人は言って下さい」ではなく、多めに配るべきだったかと反省。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

目標は点字の手紙を書いたり、読んだりできるようになることなので、試験では、一覧表を見たり、テキストにあるルールを調べたりしながらでも、点字の墨訳、点訳、自分の考えを点字で書くことの三点を科し、減点方式で採点した。自分の考えを理解してもらえ文が点字で書けることに重点を置いている。

4 授業改善の方法

もう少し進んだルールも覚えて欲しいところだが、レベルは「適切」と答えた割合が多かったなので、このままのレベルで進めたい。⑨⑩の結果から、点字の役割や利用について実感できるような作業も取り入れて、点字に対する興味を高めたい。

教員による授業アンケート (2015年度 前期)

教員名 : 中村 妙子 **職名** : 教授 **所属** : 生活未来科
科目名称 : カラーコーディネート論 **科目群** : 生活未来科 食物栄養コース 専門教育科目
授業コード : 2430 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 36名 **回答者数** : 29名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	27	1	-	1	-	22	4	1	-	-	2

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均					
					1	2	3	4	5	
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.31		■					
	② 事前学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上 3.4%	90分 程度 6.9%	60分 程度 6.9%	30分 程度 6.9%	ほとんど していない 72.4%	無回答 3.4%		
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 6.9%	90分 程度 6.9%	60分 程度 3.4%	30分 程度 20.7%	ほとんど していない 62.1%	無回答 -		
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	4	4.03		■					
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった 13.8%	やや 高かった 13.8%	適切 であった 65.5%	やや 低かった 3.4%	非常に 低かった 3.4%	無回答 -		
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	4.14		■					
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	ある程度 注意していた	注意す る必要 はな かった 13.8%	注意 してい た 55.2%	ある程度 注意 してい た 31.0%	あまり 注意し てい なかつ た -	全く 注意し てい なかつ た -	無回答 -		
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	4.00		■					
総 合 評 価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.10		■					
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	4.14		■					

1 授業の概要、特徴等

なぜ色が見えるのかを科学的に考えたり、色をどのように使って配色するのかを心理的にアプローチをしたり色体系の色の距離からアプローチしたりと、複合的な見地から色を捉えていく。デザイン帳にテーマを書き入れ、色鉛筆や色票を用いて、視覚に訴えながら理解を深めていく。理論的な色彩の基礎と、実際に色を使いながらの確認とで、色に対するとらえ方、使い方を深め、生活をより豊かなものにしていく。

2 アンケート結果に対する見解

授業中に課題を出すので、時間内に出来上がる学生と、出来上がらない学生とがいる。出来上がらない学生には課題を出すことになり、事後学習に個人差がでてしまっている。また、授業回数が増えるにしたがい、課題が多くなり、事後学習時間が増えると感じているが、アンケート時点では、ほとんどしていない学生が半分以上あったので、今後の改善につなげたい。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

色彩の基礎を理解する。色を考えて使うことが出来る。を大きな目標達成にしている。基礎のところは、1人ひとりが単元ごとに自分の言葉でまとめるように指示をだし、目標が達成できているか確認している。色を考えて使うには、それぞれのテーマにしたがって課題をだし、その意図が理解できているかを確認し、また、全体として、多方面から考えることが出来ているかをチェックし、単位認定をしている。

4 授業改善の方法

理解度のあわせて授業を進めていく難しさを感じている。色票を使つての課題も出しており、作業の早い遅いが生じ、遅い学生は、どうしてもせかしてしまい、また、宿題となってしまう。また、理解ができない学生は、そのままほっておく傾向にあり、最後に、分かりません、出来ませんとなってしまうので、1人ひとりの能力を見極めながら、丁寧に向き合っていかなければならないと思っている。

教員による授業アンケート (2015年度 前期)

教員名 : 須谷 和子 **職名** : 准教授 **所属** : 生活未来科
科目名称 : 食事療法実習 **科目群** : 生活未来科 食物栄養コース 専門教育科目
授業コード : 2195 **授業形態** : 実習 **受講者数** : 33名 **回答者数** : 29名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	-	29	-	-	-	28	-	-	-	-	1

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.10		■ ◆				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 17.2%	30分 程度 17.2%	ほとんど していない 65.5%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 -	90分 程度 3.4%	60分 程度 34.5%	30分 程度 41.4%	ほとんど していない 20.7%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.31		■ ◆				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった 10.3%	やや 高かった 24.1%	適切 であった 62.1%	やや 低かった 3.4%	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	4.24		■ ◆				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意する 必要は なかった 37.9%	注意 していた 55.2%	ある程度 注意 していた 6.9%	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	4.31		■ ◆				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.31		■ ◆				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	4.45		■ ◆				

1 授業の概要、特徴等

食事療法論と連動して各病態別に食材の選択、分量、調理方法を理解し制約がある中で美味しい治療食を作ることを目的としている。栄養士免許取得後の就職先はさまざまで、保育園から介護福祉施設に至るまで、あらゆる場面で実践力を試されることが多い。従って一回の授業で1病態のことがマスターできるよう内容を設定している。特に保育園での学外実習で課題として出されるアレルギー対応のおやつに重点をおき、昨年同様2回の実習を行った。また、高齢者向けの介護食においては市販品との食べ比べを行い、費用面で許す限り腎臓病食の特別な食材(低たんぱくパンやご飯)も取り寄せて、知ってもらうように心がけた。

2 アンケート結果に対する見解

「食」に対して違った角度から実習を行うことで、学生の視野も広がったのではないかと考える。「減塩」や「カロリーを抑えた食事」をテーマにしている授業時のレシピを「給食管理実習」の献立にも上手く取り入れてくれていた。科目間の垣根を越えた真の応用になっており、予期せぬ効果があったと考える。学外実習での事前課題や事後の反省などを更に検証して授業に反映させたい。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

実習終了後に必ずレポートを提出してもらった。病態にまつわること、自分ならどんなメニューを取り合わせるか、アレルギー対応の実習時には献立作成課題、また高齢者向け1日分の献立作成と栄養価計算などいろいろな場面を想定した課題に取り組んでもらった。成績については授業態度50%、レポート提出50%として評価した。学生が実習に取り組む姿勢、課題提出状況は相対的に良好で、授業しやすい環境であった。

4 授業改善の方法

現場で必要とされる技術や知識を定着させるためにも、学外実習で出される課題と上手く絡めて学生に指導したい。食事療法論の講義内容とできるだけ並行して進められるように担当教員と連携を図りたい。また、普通食から他の病態への展開食に結びつけられるよう検討し、授業内容を調整したい。

教員による授業アンケート (2015年度 前期)

教員名 : 池内 ますみ **職名** : 教授 **所属** : 生活未来科
科目名称 : 食品科学 **科目群** : 生活未来科 食物栄養コース 専門教育科目
授業コード : 2145 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 35名 **回答者数** : 30名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	28	-	1	1	-	29	-	-	-	-	1

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.40						
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 10.0%	60分 程度 6.7%	30分 程度 40.0%	ほとんど していない 43.3%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 13.3%	60分 程度 6.7%	30分 程度 60.0%	ほとんど していない 20.0%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.67						
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや 高かった	非常に 高かった 10.0%	やや 高かった 46.7%	適切 であった 40.0%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 3.3%	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	4.40						
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意する 必要は なかった	注意する 必要は なかった 23.3%	注意 していた 60.0%	ある程度 注意 していた 13.3%	あまり 注意して いなかった 3.3%	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	4.14						
総 合 評 価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.33						
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	4.70						

1 授業の概要、特徴等

栄養士の資格をとるために必要な「食品と衛生」に関する分野の土台となる食品成分について学ぶ科目である。食品成分の名称や化学構造など、高校までの生物、化学に関連する内容が中心となるため、高校で理系科目をあまり学習していない学生にとっては、高いハードルとなる。

2 アンケート結果に対する見解

今年度は授業時間内にその時間に学んだ内容の確認ができるよう配慮をしたため、多少難解さを感じることを軽減できた。また、補助プリントを毎回配布するよう心がけた。パワーポイントの文字量も配慮したことで授業スピードについて来ることができない学生を減らせた。それでも一部の学生にはスピードが速いと言われたが、15回の授業で決まったカリキュラムをこなすためにはやむを得ないところもある。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

昨年までは最終回に確認テストを実施していたが、今年度は16回目の定期試験期間中に実施したため、15回目にまとめをしっかりすることができた。また、覚えるポイントを示すことで、再試験の受験者を減らすことができた。試験前に詰め込むことで、各事項についての暗記はできたが、この科目で学んだことを後期の「食品材料学」、2回生の「食品衛生学」につなげる際に、定着をはかる必要がある。

4 授業改善の方法

教科書に書かれている内容は非常に多くの事項が盛り込まれているが、それをすべて覚えることは困難である。必ず覚えなければならない事項のポイントを押さえて絞り込む必要がある。また、興味を持たせるためには具体的な食品の事例をあげて理解につなげる必要がある。

教員による授業アンケート (2015年度 前期)

教員名 : 三浦 さつき **職名** : 教授 **所属** : 生活未来科
科目名称 : 食品学実験 **科目群** : 生活未来科 食物栄養コース 専門教育科目
授業コード : 2155 **授業形態** : 実習 **受講者数** : 33名 **回答者数** : 30名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	30	-	-	-	-	30	-	-	-	-	-

評価項目	教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
		1	2	3	4	5		
受講態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	5	4.31	■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分以上 6.7%	90分程度 6.7%	60分程度 13.3%	30分程度 53.3%	ほとんどしていません 20.0%	無回答 -
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分以上 50.0%	90分程度 20.0%	60分程度 10.0%	30分程度 6.7%	ほとんどしていません 13.3%	無回答 -
授業内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.33	■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや高かった	非常に高かった 30.0%	やや高かった 43.3%	適切であった 26.7%	やや低かった -	非常に低かった -	無回答 -
授業の進め方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	3.93	■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意する必要はなかった 3.3%	注意していた 83.3%	ある程度注意していた 13.3%	あまり注意していません -	全く注意していません -	無回答 -
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	3.97	■				
総合評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	3.90	■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	4.13	■				

1 授業の概要、特徴等

この授業の目的は、実験や食品学に関する基礎的な知識を学び、操作を習得することである。pHや比重などの概念も確認しながら、滴定などのビュレットやホールピペットなどの器具の正確な扱いが求められる実験も行う。前半の説明の後は、5～6人の班ごとの実験作業となるため、グループワークに必要な協調性や責任感も養う。

2 アンケート結果に対する見解

実験後の翌週期限として報告レポートを課しており、自由記述では、レポートの書き方や考察・課題についてのコメントが多く書かれていた。1回生の初めの授業でもあるため、授業の1回目でもレポートの書き方についても詳しく説明し、レポート返却時にもよくまとめられていたところやよく間違えていたところを確認して言うようにしている。⑥の説明の仕方の分かりやすさについては、全体平均よりやや低い結果であったため、難しい概念などもあり、実験作業の時間も確保したいため、長々と説明しにくいところがあるが、丁寧な説明を心掛けていきたいと思う。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

高等学校などで実験を経験している学生もいるが、ほとんどが初めてであるため、実験が得意な学生ばかりが作業をしないように、順番に交代しながら班で作業を進められるように、声掛けをしている。それぞれの取り組み意欲やレポートの提出状況(期日通りに提出できているか)なども含めて評価を行っている。

4 授業改善の方法

今年度の公開授業の科目でもあったため、見学者から経験の有無を1回目で調査したり、班分けを途中で変えたりするなどのアイデアもいただいたので、次年度は実施したい。6班で行うと、後ろの2台まで声が伝わりにくく、黒板も見にくいこともあるようなので、気を付けたいと思う。

教員による授業アンケート (2015年度 前期)

教員名 : 毛受 真由美 **職名** : 非常勤 **所属** : 生活未来科
科目名称 : 人体の構造と機能 I **科目群** : 生活未来科 食物栄養コース 専門教育科目
授業コード : 2115 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 38名 **回答者数** : 32名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	30	1	1	-	-	31	1	-	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.22		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 6.3%	90分 程度 6.3%	60分 程度 15.6%	30分 程度 28.1%	ほとんど していない 43.8%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 6.3%	90分 程度 12.5%	60分 程度 15.6%	30分 程度 28.1%	ほとんど していない 37.5%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.38		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった 3.1%	やや 高かった 50.0%	適切 であった 46.9%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	4.31		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意する 必要は なかった 12.5%	注意 していた 71.9%	ある程度 注意 していた 15.6%	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	4.28		■				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.31		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	4.38		■				

1 授業の概要、特徴等

臨床栄養学など疾病について学ぶために、必要となる人体の解剖生理について概説した。教科書にそって授業を進め、特に重要と思われる点をプリントにして提供し、学習しやすいように配慮した。単なる暗記ではなく、ヒトすなわち自分のからだがどのようなしくみで成り立っているか理解することを主な目標とした。

2 アンケート結果に対する見解

多くの学生が わかりやすかったと回答しているが、約1割の学生は、そう感じていない。全員が興味を持って臨み、理解できるように解説の方法を工夫したい。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

平常点30%+筆記によるまとめとふりかえり70%の合計で評価した。授業に真剣に取り組むことが点数に反映されるように、毎回授業終わりにその日の授業内容について問題を出し、平常点とした。

4 授業改善の方法

板書が見えにくいとの指摘があったので、注意したい。実物は無理なので、できるだけ映像を授業に取り入れたい。

教員による授業アンケート (2015年度 前期)

教員名 : 箕山 なおみ **職名** : 助教 **所属** : 生活未来科
科目名称 : 専門調理(製菓実習) **科目群** : 生活未来科 食物栄養コース 専門教育科目
授業コード : 2301 **授業形態** : 実習 **受講者数** : 13名 **回答者数** : 10名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	-	10	-	-	-	9	-	-	-	-	1

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	5	4.70		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上 -	90分 程度 10.0%	60分 程度 -	30分 程度 10.0%	ほとんど していない	80.0%	無回答 -
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 10.0%	90分 程度 20.0%	60分 程度 10.0%	30分 程度 20.0%	ほとんど していない	40.0%	無回答 -
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	5.00		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった 10.0%	やや 高かった 50.0%	適切 であった 40.0%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	4.90		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意する 必要は なかった	注意する 必要は なかった 60.0%	注意 していた 40.0%	ある程度 注意 していた -	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	5	4.78		■				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	5.00		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.80		■				

1 授業の概要、特徴等

製菓についての基礎的な知識や器具の扱い方を身につける。材料の特性を知り、食物アレルギーに対応した菓子作りを学ぶ。実演を交えた説明の後、3～4人の班ごとに製品を完成させ、試食する。

2 アンケート結果に対する見解

器具の準備や作業工程の確認、ちょっとしたポイントなどが製品の出来に繋がってくる事を実感している学生が多いように感じられる。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

調理はできるがお菓子作りは苦手、細かい作業が苦手、などの学生がいるので、同じ学生ばかりが作業に関わらない様に各班をまわる様にしている。出欠状況や作業への取り組み、レポートの提出状況などを含めて評価を行っている。

4 授業改善の方法

師範台での実演の手元が、後ろの方の学生には見えにくい様なので、見えやすい所まで移動するよう促したりするなどして、作業の様子を全員にしっかり目で見えて確認してもらいたい。

教員による授業アンケート (2015年度 前期)

教員名 : 松河 哲男 **職名** : 非常勤 **所属** : 生活未来科
科目名称 : イラストレーション **科目群** : 生活未来科 ビジネスキャリアコース 専門教育科目
授業コード : 3435 **授業形態** : 演習 **受講者数** : 7名 **回答者数** : 5名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	4	1	-	-	-	-	4	1	-	-	-

評価項目	教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価				
				■ 学生の評価平均				
				1	2	3	4	5
受講態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	5	4.00	■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分以上 90分程度 -	60分程度 20.0%	30分程度 20.0%	ほとんどしていません 60.0%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分以上 90分程度 -	60分程度 -	30分程度 40.0%	ほとんどしていません 60.0%	無回答 -	
授業内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	5.00	■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや高かった	非常に高かった 60.0%	やや高かった 20.0%	適切であった 20.0%	やや低かった -	非常に低かった -	無回答 -
授業の進め方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	4.80	■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意する必要はなかった 80.0%	注意していた 20.0%	ある程度注意していた -	あまり注意していません -	全く注意していません -	無回答 -
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	5.00	■				
総合評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	5.00	■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.80	■				

1 授業の概要、特徴等

現在、我々が日常生活で関わっているデザインが何故必要とされ、今の形になるまでを「葛飾北斎」という作家の作品と業績を通じて説明する。それを海外の美術の流れや思想と比較しながら知識を身に付ける。さらに、そこから得た知識を基にグラフィックデザインの手法を使いながら、公募展に自身の作品を応募する。そして、その制作過程でさまざまな技術や感性を身に付ける。

2 アンケート結果に対する見解

今年度の授業方針は、国際社会において日本が誇れる内容を少しでもアピールできる知識を持つことで、社会人として一目置かれる存在になることであった。結果、配布資料やテキストが理解しやすいものになったのだと思う。奇しくも、話題となった東京オリンピックのエンブレム問題においても、授業の中で触れたコピーライツがその説明になっていたと思われる。⇒⑨

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

<目標>毎回の授業テーマに基づいて、制作された作品を2つの公募展(第100回二科展デザイン部B部門・産経新聞主催第13回全国ポストカードデザイン大賞)に応募する。 <成績評価基準>テーマに取り組む姿勢と作品の完成度を評価基準とした。 <単位認定>課題作品の提出。

4 授業改善の方法

科目名称がイラストレーションではあるが、内容はグラフィックデザインの知識習得となっているため、少し授業での説明が難しいものとなっていたように思われる。そこで、次回からは課題テーマ数を少し絞り込み、同じテーマによる実習を反復する機会を増やしたいと思う。

教員による授業アンケート (2015年度 前期)

教員名 : 井上 彩 **職名** : 非常勤 **所属** : 生活未来科
科目名称 : CAD演習 **科目群** : 生活未来科 ビジネスキャリアコース 専門教育科目
授業コード : 3427 **授業形態** : 演習 **受講者数** : 4名 **回答者数** : 3名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	-	3	-	-	-	-	3	-	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.00		■ ◆				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 -	30分 程度 33.3%	ほとんど していない 66.7%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 -	30分 程度 33.3%	ほとんど していない 66.7%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	4	4.00		■ ◆				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった -	やや 高かった 66.7%	適切 であった 33.3%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	4.67		■ ◆				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意する 必要は なかった	注意する 必要は なかった 66.7%	注意 していた 33.3%	ある程度 注意 していた -	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	5	4.67		■ ◆				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	5	4.00		■ ◆				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	3	4.00		■ ◆				

1 授業の概要、特徴等

「イラスト画像処理」で身に付けたPhotoshopやIllustratorの基本操作を応用し、パッケージデザインやロゴデザイン、Tシャツデザインを制作します。また、簡単なGIFアニメーションの作成や、HPのヘッダーをデザインするといった、DTPとWEBの両方面で役立つ操作を演習します。後半は、「ショップデザイン」をテーマに、それぞれが企画したショップについての外観イメージをカラーズで作成し、ショップカードのデザインや、目玉商品を企画・プレゼンテーションするなど、一貫したコンセプトでのデザイン制作を進めました。

2 アンケート結果に対する見解

PhotoshopやIllustratorの基本操作以外は、一人一人のデザインが必要とする操作を個別に指導しています。時にそれは専門的かつ難解な操作方法であった為、生徒達の理解度について少々の不安がありました。しかし、アンケート中の問⑤「この授業のレベルはあなたにとって適切でしたか」に対して「やや高かった」と「適切であった」という回答でしたので、私が意識していた授業レベルと相違ないことに安心しました。学生たちの日常や将来に役立つスキルであることを願います。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

一回生の後期で担当した時と変わらず、全員が積極的かつ真面目に授業に取り組んでいる姿が印象的でした。また、専門的なソフトウェアの操作方法を個人的に聞いてくる生徒や、授業時間外にも積極的に独自でリサーチに取り組む生徒を目にする機会が多く、前回よりも個々の創作意欲が感じられる場面が多々ありました。そして、一人一人のアイデアがそれぞれオリジナルであることに毎回感心させられました。企画力、創造力、表現力、プレゼンテーション能力の全てにおいて、1年間でそれぞれが大幅に成長したことを高く評価したいと思います。

4 授業改善の方法

今回は、「ショップデザイン」をメインテーマに、それに合った様々なデザインやプレゼンテーションを重ねていきました。一貫性のあるデザインが出来るという利点がある反面、就職活動などのやむを得ない理由で授業を休んだ場合にも、次の授業で使う素材やデザインが揃わず、授業に追いつくことが厳しいというマイナスポイントもありました。こちらでテンポラリーな素材を準備することや、授業の開始15分前の時間に個別の質問を受け付けるなどの対策で、やむを得ない欠席の場合の遅れをカバーしたいと思います。

教員による授業アンケート (2015年度 前期)

教員名 : 谷村 真理 **職名** : 非常勤 **所属** : 生活未来科
科目名称 : 経理実務 I **科目群** : 生活未来科 ビジネスキャリアコース 専門教育科目
授業コード : 3160 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 3名 **回答者数** : 2名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	1	-	-	1	-	-	2	-	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.50		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 -	30分 程度 100.0%	ほとんど していない	無回答 -	-
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 -	30分 程度 100.0%	ほとんど していない	無回答 -	-
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.50		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや 高かった	非常に 高かった 50.0%	やや 高かった 50.0%	適切 であった -	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	-
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	5.00		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意する 必要は なかった	注意する 必要は なかった 100.0%	注意 していた -	ある程度 注意 していた -	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答 -	-
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	5	5.00		■				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.50		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	4.50		■				

1 授業の概要、特徴等

・ 仕訳などの複式簿記の基本を中心に、講義を行った。また、単なる知識の習得だけでなく、実際の企業ではこれらの知識がどのように活かされているのかを理解してもらうべく、私自身の経理部時代の経験や一般社会での活用事例を極力まじえるように努めた。
 ・ 授業の進め方としては、学生の興味や理解度に合わせて、適宜練習問題を取り入れ知識の定着をはかった。また、毎回1度は発言させるようにして、自主性の育成にも配慮した。

2 アンケート結果に対する見解

・ 概ね、納得のいく評価であった。 ・ 出欠状況から理解度に若干差が出ていたように思う。今後はさらに、出欠状況も含め個々の達成度に配慮した個別指導も充実させていきたい。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

・ 仕訳などの複式簿記の基本については、概ね理解できたと思う。テストの成績も、ばらつきはあるものの、ほぼ想像通りのものであった。
 ・ 総じてモチベーションが非常に高く、吸収力も高かった。 ・ 理解度に差があったものの、相互に教えあう雰囲気作りに配慮することで、クラス全体のレベルを向上させることができたと思う。

4 授業改善の方法

・ 既学者（商業高校出身など）とそうでない者の理解度にはどうしても差が生じるため、レベルにあわせて個別に課題を課すなど、決め細やかな配慮を行っていきたい。 ・ 特にやる気のある学生に関しては、日商簿記検定3級受験に備えて、今後もフォローしていきたい。

教員による授業アンケート (2015年度 前期)

教員名 : 向井 光太郎 **職名** : 准教授 **所属** : 生活未来科
科目名称 : 卒業研究 I **科目群** : 生活未来科 ビジネスキャリアコース 専門教育科目
授業コード : 3951 **授業形態** : 演習 **受講者数** : 4名 **回答者数** : 4名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	-	4	-	-	-	-	4	-	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	5	4.50		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 -	30分 程度 50.0%	ほとんど していない 50.0%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 -	30分 程度 50.0%	ほとんど していない 50.0%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	4	4.25		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった 25.0%	やや 高かった 25.0%	適切 であった 50.0%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	4.25		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意する 必要は なかった	注意する 必要は なかった 100.0%	注意 していた -	ある程度 注意 していた -	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	4.25		■				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.25		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.50		■				

1 授業の概要、特徴等

共同研究としてのプロジェクト・プログラムと、個人研究としての卒業論文作成プログラムをミックスした科目構成による演習科目。奈良の地域連携も視野に入れたプロジェクト・プログラムでは、市内多目的スペース型カフェで一般対象の映画作品の自主上映会に取り組み、企画・広報・運営・事務処理・交渉など全般を進めた。卒業論文は、各自が自主的に研究テーマを設定し、テーマに対する持論を展開させる前提での構成づくりを行い、後期の個人研究につなげる研究概要を作成した。

2 アンケート結果に対する見解

共同研究・個人研究共に、受講学生のモチベーション維持を意識するために授業内容や進め方に工夫した。1回生終盤のインターンシップ(科目・GPプログラム)や実践絵集科目でコミュニケーションおよび発想のパフォーマンスアップに取り組んでいたため、当該科目でもコミュニケーションを重視してアイデアを生み出すよう誘導し、プログラムに積極的に取り組めるように工夫した。個人研究テーマも確定し、後期科目への展開が良い流れになった。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

専門性(知識と技術)・人間性(マナーと修学意欲)・思考力(課題発見と課題解決)・行動力(チームワークと情報発信)のパフォーマンスを総合評価した。自主上映会の事務処理能力やビジネス上のルール、文字表現や企業との交渉上コミュニケーション、納期意識、役割分担など、業務遂行力を各項目で評価した。個人研究では、テーマに対する問題意識の強さと研究心を、途中経過発表のパフォーマンスおよび研究概要作りから各項目で評価した。

4 授業改善の方法

夏季インターンシップ(産業界ニーズGP社風発見インターンシップ)に取り組んでいたため、事前課題および事後学習のボリュームを少なく設定した。後期科目(卒業研究Ⅱ)では、事前事後課題のボリューム向上を心がけて、個人研究の密度と工数向上を目標としてより有意義な卒業研究になるよう心がける。また、途中発表の頻度も増やし、プレゼンテーション力を鍛えることにより持論の論理性や情報収集度も検証できるよう心がける。

教員による授業アンケート (2015年度 前期)

教員名 : 登坂 一博 **職名** : 非常勤 **所属** : 生活未来科
科目名称 : 日本企業論 **科目群** : 生活未来科 ビジネスキャリアコース 専門教育科目
授業コード : 3126 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 3名 **回答者数** : 2名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	2	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-

評価項目	教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均					
		1	2	3	4	5			
受講態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	5	4.00		◇				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分以上 50.0%	90分程度 -	60分程度 -	30分程度 -	ほとんど していない 50.0%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分以上 50.0%	90分程度 -	60分程度 -	30分程度 -	ほとんど していない 50.0%	無回答 -	
授業内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.50		◇				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切であった	非常に高かった 50.0%	やや高かった -	適切であった 50.0%	やや低かった -	非常に低かった -	無回答 -	
授業の進め方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	5.00		◇				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意する必要はなかった	注意する必要はなかった 50.0%	注意していた -	ある程度注意していた 50.0%	あまり注意していませんでした -	全く注意していませんでした -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	5	4.50		◇				
総合評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.50		◇				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	4.50		◇				

1 授業の概要、特徴等

企業・会社とは何かを経営戦略論やマーケティング戦略論の学術的なアプローチと講師の実体験(起業)及び特徴的な企業の事例等を通してリアル感覚で学んで貰うように講義を進めた。受講生が企業・会社に関する理解を深めるためにPCを使った情報検索やそれによって知りえた情報を自分の言葉でまとめさせ発表させるような実践的な手法を使って実施したので、当初の狙いである下記の項目はある程度は達成できていると思う。

1. 会社とは何かを理解することができる。
2. 会社の仕組みを理解することができる。
3. 多数の企業研究によって上記の理解を深めることができる。
4. 企業人、社会人としての基礎力を身につけることができる。

2 アンケート結果に対する見解

受講生2名のアンケートで評価するのも無理があると思うが、本講義では企業・会社がどのようなものであるかの基本的な理解を確認しながら、物事を論理的に考え、自分自身の言葉で相手に伝えることを主に講義を進めた結果、私の自己評価と学生の評価に大きなギャップはない。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

受講生が、大学生になりいきなり企業・会社について学ぶという非常に難しいテーマであるので、基本知識の習得に重点をおいて講義を進めたので当初の目標である「企業に関する基礎知識の習得」はある程度は達成できていると思う。講義を休まずに出席(学び考える癖をつける)し、その講義中の受講態度はもちろんのこと、各自の講義の理解度を主に成績評価基準とし、最後に「振り返り試験」を実施し総合的に理解力・応用力を判断し単位認定を行った。

4 授業改善の方法

受講生が2名と講師との関係性は強くなるが、学生同士で切磋琢磨して学ぶ環境を作るのが最大の改善点だと思う。

教員による授業アンケート (2015年度 前期)

教員名 : 谷村 真理 **職名** : 非常勤 **所属** : 生活未来科
科目名称 : 日本経済とビジネス **科目群** : 生活未来科 ビジネスキャリアコース 専門教育科目
授業コード : 3190 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 4名 **回答者数** : 2名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	-	2	-	-	-	-	2	-	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	5.00		■ ◆				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 -	30分 程度 50.0%	ほとんど していない 50.0%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 -	30分 程度 50.0%	ほとんど していない 50.0%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.00		■ ◆				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや 高かった	非常に 高かった -	やや 高かった 50.0%	適切 であった 50.0%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	4.00		■ ◆				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意する 必要は なかった	注意する 必要は なかった 100.0%	注意 していた -	ある程度 注意 していた -	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	4.00		■ ◆				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	5	3.50		■ ◆				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.00		■ ◆				

1 授業の概要、特徴等

・単なる知識の付与・習得ではなく、考察力の向上に注力した講義を行った。 ・前半は、経済学のテキストを適宜抜粋し、日本経済やビジネスを理解する上での基礎教養について講義を行った。後半は、ビジネスプランを作成するという実学的体験を通じて、経済の仕組みを肌で理解してもらうように尽力した。

2 アンケート結果に対する見解

・アンケート結果は概ね妥当であると考えている。 ・理解度に応じて講義内容を変更するなど、レベル感に配慮した軌道修正を行ったが、全体的にやや高度であった点は否めない。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

・総じてモチベーションが高く、理解度も高かった。 ・前半の経済学は、テキストをより実用的なものに変更したことで、身近な課題として実感してもらうことができた。 ・自分の目線で外部環境を判断し考察する力は、一定の向上は見られたものの、まだ課題を残すところとなった。 ・しかしながら、関心のあるテーマについてはよく考察しており、ビジネスの基本や難しさを理解してもらうことができた。

4 授業改善の方法

・理解度の差や関心事に配慮しつつ、臨機応変な講義内容としていきたい。 ・適宜時事課題を取り入れるなど、経済への関心がより高まるような内容を工夫していきたい。

教員による授業アンケート (2015年度 前期)

教員名 : 東出 加奈子 **職名** : 非常勤 **所属** : 生活未来科
科目名称 : ビジネス社会論 **科目群** : 生活未来科 ビジネスキャリアコース 専門教育科目
授業コード : 3136 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 4名 **回答者数** : 4名

回答者内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども学科	専攻科福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉コース	食物栄養コース	ビジネスキャリアコース				
	-	4	-	-	-	-	4	-	-	-	-

評価項目	教員の自己評価	学生の評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均					
		1	2	3	4	5			
受講態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	3.75	■					
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分以上 90分程度 60分程度 30分程度	-	-	-	100.0%	-	無回答
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分以上 90分程度 60分程度 30分程度	-	-	-	25.0%	75.0%	無回答
授業内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	4	3.75	■					
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切であった	非常に高かった やや高かった 25.0%	-	適切であった やや低かった 75.0%	-	-	-	無回答
授業の進め方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	5.00	■					
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意する必要はなかった	注意する必要はなかった 75.0%	注意していた 25.0%	ある程度注意していた	あまり注意していなかった	全く注意していなかった	無回答	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	5	5.00	■					
総合評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.25	■					
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	5.00	■					

1 授業の概要、特徴等

ビジネス社会における基礎知識を理解し、雇用されうる能力 (employability) を養うことを目指す。時事問題を含めるビジネス常識および基礎的なコミュニケーション、情報の活用について理解していく。そして、自らが積極的に行動できるよう、企業の役割や責任を理解するとともに、効率的な業務の進め方、問題解決のための技法習得を目指していく。その成果としてジョブパス (ビジネス能力検定) の資格取得を目指していく。

2 アンケート結果に対する見解

ビジネス社会について具体例を通して、出来るだけ身近なこととして捉えていけるよう説明していったため、説明の仕方や理解度に配慮し、将来に向けて役立つよう進めていけたことから、概ねアンケートの結果に示されたと考える。一方、少人数の授業であったため、個別に丁寧に対応したため、全体での雰囲気づくりの点において、議論の場や発表等に多くの時間をかけることが出来なかった。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

ビジネス能力検定に向けての模擬試験において60%、そして課題提出において授業への積極性を中心に平常点40%によって成績ならびに単位認定を行った。

4 授業改善の方法

受講生は、自分の将来に役立つと思うという項目において全員が「そう思う」と回答しているものの、本授業の開講時期においては「1回生」の時期と考えるようである。2回生を対象としている本授業につき、もう少しレベルアップを試み、議論の場を多く設けていくことが必要であるかと考える。

教員による授業アンケート (2015年度 前期)

教員名 : 吉村 司 **職名** : 非常勤 **所属** : 生活未来科
科目名称 : ビジネス文書Ⅱ **科目群** : 生活未来科 ビジネスキャリアコース 専門教育科目
授業コード : 3128 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 6名 **回答者数** : 5名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	1	4	-	-	-	-	5	-	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	5	4.20		■■■■■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 20.0%	90分 程度 20.0%	60分 程度 -	30分 程度 20.0%	ほとんど していない 40.0%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 20.0%	30分 程度 20.0%	ほとんど していない 60.0%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.40		■■■■■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや 高かった	非常に 高かった 20.0%	やや 高かった 60.0%	適切 であった 20.0%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	4.40		■■■■■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	ある程度 注意していた	注意す る必要 はな かった 40.0%	注意 してい た 60.0%	ある程度 注意 してい た -	あまり 注意し てい な かった -	全く 注意し てい な かった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	5	4.60		■■■■■				
総 合 評 価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.20		■■■■■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.20		■■■■■				

1 授業の概要、特徴等

ビジネスシーンにおいて利用度が高い文書形式について、「ビジネス文書検定」および案内書、稟議書、議事録、プレスリリース、企画書、提案書等一般的なビジネス文書テンプレートを活用し、オリジナル教材による講義、演習、ワークショップを通じてビジネス文書の理解力・企画力・活用力を高めるとともに、毎回の1分間スピーチや授業内の発表により、文書構成力やプレゼンテーション力の向上を目指した。

2 アンケート結果に対する見解

単にビジネス文書を理解するだけでなく、企画力、構成力、プレゼンテーション力まで踏み込んだ授業内容であったので、予想通りやや難しい印象の授業になったようだが、授業での一体感、教材の完成度、学生の理解度については一定の評価が得られ、新しい知識・技術や問題意識・関心等「気づき」を提供することは出来た様に感じる。今後の課題として社会経験の無い学生各位にビジネスシーンにおけるビジネス文書駆使力のメリットや重要性をよりリアルに理解頂けるよう授業を工夫して行きたい。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

目標達成については「2」の通り。成績評価基準は平常点 (50%) (①出席②受講姿勢)、コミュニケーション力 (30%) (①プレゼンテーション力②対人理解力③対人配慮力)、理解度 (20%) (①レポート内容②論述試験) および学修成果等の各評価項目をS~Dの5段階で評価し点数化。単純な出席点ではなく、毎回授業終了後に提出するメールレポートや授業貢献を毎回採点し、授業の理解力のみならずマーケティング力やファシリテーション力等多角的な評価を心掛けて単位認定した。

4 授業改善の方法

ビジネスシーンにおけるインターネット活用は日常的かつより高度化しており、授業の中でもインターネット環境下での各種ビジネス文書の展開により重点を置いて説明してきたが、ビジネス経験に乏しい学生各位にとってこの分野で理解がなかなか及ばないことはある意味致し方ない。よって、今後のビジネス社会を理解するよりリアルな事例、記事、データ等を駆使しながら、彼ら彼女らの等身大の経験に響く素材をできるだけ集めて授業内で展開することで、より理解を深めていける授業作りにチャレンジして行きたい。

教員による授業アンケート (2015年度 前期)

教員名 : 大西 有紀 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 音楽 I **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 55304aa・bb **授業形態** : 演習 **受講者数** : 10名 **回答者数** : 9名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	9	-	-	-	-	-	-	9	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.56		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 11.1%	90分 程度 11.1%	60分 程度 22.2%	30分 程度 55.6%	ほとんど していない	-	無回答 -
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 11.1%	90分 程度 11.1%	60分 程度 22.2%	30分 程度 55.6%	ほとんど していない	-	無回答 -
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.78		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった 11.1%	やや 高かった 33.3%	適切 であった 55.6%	やや 低かった -	非常に 低かった -	-	無回答 -
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	5.00		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意する 必要は なかった	注意する 必要は なかった 66.7%	注意 していた 33.3%	ある程度 注意 していた -	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	-	無回答 -
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	5	4.56		■				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.33		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.89		■				

1 授業の概要、特徴等

幼児指導上必要なピアノの基礎技術を身につける。次年度、弾き歌いができる為の基礎力を養う。 集団授業(45分)、個人レッスン、フォローアップ授業の3本柱で展開する。

2 アンケート結果に対する見解

ピアノ個人レッスンを長くしてほしい という意見が幾つか見られた。 長くすることは物理的に難しいのだが短時間で効率よく分かり易く指導できるよう創意工夫しレッスンにつとめたい。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

ピアノグレード2取得を単位認定基準とする。 成績は期末発表会での演奏に対する評価、出席状況、開始グレードからの伸び具合、日ごろの取り組みの態度にて総合的に評価する。

4 授業改善の方法

比較的皆、よく練習に励み頑張っていたように思う。 ただし、復習にあてる時間は少ないのが気になった。 日々の積み重ねが大切なので課題の出し方も工夫し導いてゆきたい。

教員による授業アンケート (2015年度 前期)

教員名 : 大城 弓恵 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 音楽 I **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 55304ba・cb **授業形態** : 演習 **受講者数** : 12名 **回答者数** : 11名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	9	-	1	1	-	-	-	10	-	-	1

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	5	4.55		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 45.5%	90分 程度 9.1%	60分 程度 36.4%	30分 程度 9.1%	ほとんど していない	無回答	-
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 45.5%	90分 程度 9.1%	60分 程度 36.4%	30分 程度 9.1%	ほとんど していない	無回答	-
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	5.00		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった 27.3%	やや 高かった 27.3%	適切 であった 45.5%	やや 低かった	非常に 低かった	無回答	-
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	4.91		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意する 必要は なかった	注意する 必要は なかった 63.6%	注意 していた 36.4%	ある程度 注意 していた	あまり 注意して いなかった	全く 注意して いなかった	無回答	-
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	4.91		■				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.64		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.82		■				

1 授業の概要、特徴等

保育現場で必要なピアノの演奏技術を身につけることを目標としている。授業は個人レッスン、フォロー学習、EP教室での集団学習の3種類からなる。集団学習では基本的な演奏技術を学び、個人レッスンでは各進度に応じた課題をこなしていく。フォロー学習では保育現場で使われる歌を使い歌唱や発声を学ぶ。全ての授業に参加して1回の出席とする。

2 アンケート結果に対する見解

アンケート通りほぼ大半の学生が事前に練習をして授業に取り組んでいたと思う。授業レベルが高かったと感じている学生が半数いたが、一週間でそれぞれの課題をこなせていたようなので適切だったのではと感じる。「やらなければ出来ない=レベルが高い」という感覚を「やれば出来る」という考えに変えていけたらと思う。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

演奏レベルに合わせてグレードが設けられており、初めの授業で各自の実力に応じた開始グレードを設定する。その後グレードに基づいて進級するが、バイエル教則本 60 番程度(グレード2)を取得することを目標達成の基準とする。またグレード内の課題曲より1曲選び、期末の発表会で演奏する。発表会での演奏評価と授業への取組、課題達成度で総合的に評価する。

4 授業改善の方法

授業は個人レッスンということもあり、各自の状態に合わせた指導がしやすく授業の雰囲気も保ちやすいと感じる。一方、かなり進度や理解度に個人差があるので一人15分という決められた時間内では足りない時もあり、延長をしてみたりすることもしばしばあった。学生に不公平感を感じさせないよう配慮する必要と、時間に捉われすぎピアノ初心者などの学生など特に必要な学生への指導が疎かにならないような工夫を考えることが必要だ。

教員による授業アンケート (2015年度 前期)

教員名 : 宮田 眞理 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 音楽 I **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 55304ad・bd・cd **授業形態** : 演習 **受講者数** : 16名 **回答者数** : 14名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	14	-	-	-	-	-	-	14	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	5	4.36		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 21.4%	90分 程度 14.3%	60分 程度 57.1%	30分 程度 7.1%	ほとんど していない	無回答	-
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 21.4%	90分 程度 7.1%	60分 程度 71.4%	30分 程度 -	ほとんど していない	無回答	-
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.43		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった 14.3%	やや 高かった 28.6%	適切 であった 57.1%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答	-
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	4.86		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意する 必要は なかった	注意する 必要は なかった 50.0%	注意 していた 50.0%	ある程度 注意 していた -	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答	-
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	4.79		■				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.71		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	5.00		■				

1 授業の概要、特徴等

ピアノ演奏の初歩。音符の読み方・楽譜の理解・楽語の理解。グレード別に設定された課題曲を学生の進度別に学習する。グレード中級者からは童謡弾き歌いの導入 指導は個人授業とEPとフォローでの集団授業の組み合わせ。

2 アンケート結果に対する見解

ピアノは予習、復習ができていないとなかなか課題のクリアは難しい。少しでも予習がしやすくなるように譜読みや演奏のポイント等を指導している。時間の経過と共に少しずつ課題に取り組む姿勢にばらつきが出てくるので、常に学生が前向きに取り組めるよう気を配りたい。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

初級の楽譜が自分で譜読みでき、演奏出来る事が目標。決められた曲数を全て合格し、課題となる曲を試験で演奏する。試験での演奏を複数の講師で採点し平均点を出す。平常点も加味される。

4 授業改善の方法

学生が楽しんでピアノの練習ができるよう、これからも気を配りたい。また個人指導とEP・フォローの講師が連携をとり、学生の指導を行っていききたい。

教員による授業アンケート (2015年度 前期)

教員名 : 山下 玲子 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 音楽 I **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 55304ae・be・ce **授業形態** : 演習 **受講者数** : 15名 **回答者数** : 14名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	14	-	-	-	-	-	-	14	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.50		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 21.4%	90分 程度 28.6%	60分 程度 35.7%	30分 程度 14.3%	ほとんど していない -	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 21.4%	90分 程度 21.4%	60分 程度 42.9%	30分 程度 14.3%	ほとんど していない -	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.64		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった 7.1%	やや 高かった 50.0%	適切 であった 42.9%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	4.86		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意す る必要 はな かつ た 42.9%	注意 して いた 42.9%	ある程 度注 意し てい た 14.3%	あま り注 意し てい な かつ た -	全 く注 意し てい な かつ た -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	5	4.64		■				
総 合 評 価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.86		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.92		■				

1 授業の概要、特徴等

保育現場に必要なピアノの演奏技能を理解、修得し、音楽的な保育能力の向上を目指す。授業は個人レッスン45分とクラス学習45分で構成され、個人レッスンの待ち時間にはフォローアップとして一層深い理解、修得のためのアドバイスを受けることができる。個人レッスンでは、学生各々の進度に合ったグレードレベルの課題曲の中から選んだ曲を学修し、指導を受ける。また、クラス学習ではピアノ演奏技術の解説と演習などが行われる。

2 アンケート結果に対する見解

学生は、授業の目標を理解し、比較的良好に努力して事前事後レッスンのための時間をとってこの授業に取り組んでいた、と思われる。ピアノの演奏技能習得には、何よりも日々の継続的な努力によるところが大きいので、その点に配慮した指導を常々心がけているが、とりわけ本年度は授業の形態や教材が一新されたので、この結果は学生にとってその内容が取り組みやすく、また努力し甲斐の有るものであったと思われる。なお、今後もより一層多くの時間をかけて努力し、授業に取り組んでいって貰いたい。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

幼児保育に必要なピアノの基礎技能を身に付けるため、グレード2の取得を単位認定基準としている。期末試験は、学生各々のレベルに応じた試験曲を課題曲の中から選び、発表会形式で行われる。試験点のほかに、出席状態、開始グレードからの伸びの度合い、日ごろの取り組みの態度などを平常点として、その合計をもって評価点とする。

4 授業改善の方法

アンケート結果に対する見解の項目で、学生は比較的良好に練習時間をとって授業に取り組んだようだと思われたが、そこには個人差があり、学生一人一人に目を向けると、今後なお一層の改善をしていくべきだと思う。何よりも、高い目標を持ち、日々の努力を重ねたうえでの達成感を得ていくことが、音楽を楽しむつ能力を伸ばし、保育の現場での対応力をつけていくことにつながると思うので、学生各々に必要且つ適切なアドバイスをしていく。

教員による授業アンケート (2015年度 前期)

教員名 : 吉田 直子 **職名** : 講師 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 音楽 I **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 55304ca **授業形態** : 演習 **受講者数** : 6名 **回答者数** : 5名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	5	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	5	4.40		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 40.0%	30分 程度 60.0%	ほとんど していない -	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 20.0%	30分 程度 80.0%	ほとんど していない -	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.60		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや 高かった	非常に 高かった -	やや 高かった 20.0%	適切 であった 80.0%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	5.00		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意す る必要 はな かつ た 40.0%	注意 して いた 40.0%	ある程 度注 意し てい た 20.0%	あま り注 意し てい な かつ た -	全 く注 意し てい な かつ た -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	5	4.60		■				
総 合 評 価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.60		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	5.00		■				

1 授業の概要、特徴等

この授業は1回生を対象で、幼稚園・保育園免許取得のための必須科目になる。本学ではピアノ経験が全くない学生が70%と多い。また、残りは1~2年の経験者からブルグミュラー、ソナチネ程度までと入学時点の経験差も大きい。このため、他の音楽系科で全くの基礎から楽譜の知識やリズムなどを取り出して指導して、「音楽I」では実際に演奏するピアノ技術と歌唱について集団授業、個別レッスンで指導した。

2 アンケート結果に対する見解

全くの初心者から2年間で幼児保育の現場で十分対応できる実力をつけるのはなかなか容易ではないことから、まずはピアノを楽しんでいると感じ、自発的な学習意欲を持たせることが重要だと考えていた。授業の性格上、予習、復習が欠かせないが、授業の事前事後の勉強時間を問う設問ではそれぞれ全体平均より10分程度高くなっていて、学生が自発的に意欲を持って学習に臨んだと考える。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

ピアノ技術については、ピアノ経験によるレベル差に対応できるグレードを作成して、個々に実力に合った目標を目指して学習できるようにした。全くの初心者には、単位取得条件となっていた課題の達成が易しいものではなかったが、真面目に努力を続けて学習すれば必ず達成できる適正レベルであったと考える。

4 授業改善の方法

ピアノは習得に時間がかかる性質上、継続的に学習せず、学期の終わりごろにあわせて努力し始めても間に合わない。日頃からの地道な学習継続が大切なので、このことについてあらためて学生に注意を促したい。成人の初心者である学生については、楽譜の読み方も含めて総合的に音楽的な力を伸ばすことがピアノ演奏につながるため、どのように指導すれば力を伸ばすことができるのか、日々指導法を工夫したい。

教員による授業アンケート (2015年度 前期)

教員名 : 河合 摂子 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 音楽基礎演習 I (理論) **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 55400ba・bd **授業形態** : 演習 **受講者数** : 41名 **回答者数** : 37名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	37	-	-	-	-	-	-	37	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	3.89		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 5.4%	30分 程度 37.8%	ほとんど していない 56.8%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 8.1%	30分 程度 43.2%	ほとんど していない 48.6%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.35		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや 高かった	非常に 高かった 16.2%	やや 高かった 43.2%	適切 であった 40.5%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	4.27		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	ある程度 注意していた	注意する 必要は なかった 18.9%	注意 していた 29.7%	ある程度 注意 していた 51.4%	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	4.08		■				
総 合 評 価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.16		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.41		■				

1 授業の概要、特徴等

幼児教育の一つ“音楽”は現場でなくてはならない科目である。主に子供達に歌を教えたり、合奏、身体表現でピアノを弾く等多方面での技術を学ばなくてはならない。その一方で和音のつけ方、新しい曲を演奏する力、合奏譜のつくり方等理論を学ぶことは不可欠である。実技のうらにある理論を学び、総合的音楽の理解を深めることがこの学科の特徴であるとする。

2 アンケート結果に対する見解

初めて担当させて頂き、シラバスをなるべく完遂させるように授業を進めた。その結果、少し理解不足を感じつつも、進度をあまりゆるめなかったため、理解したいと思う学生への配慮がわかりつつも不足してしまった。その意見が多かった事は納得で、反省している。しかし教育の学生には難しい理論を嫌わず学んでもらえたことはとても素直にうれしい。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

教育の学生においての理論はピアノでの演奏、伴奏付け等の手助け、または基礎部門なので、同じ位置づけにあるソルフェージュとの抱き合わせでの成績はとても評価として良いと考える。シラバスにある最低の理解と出欠で判定していることもとても理にかなっていると考える。

4 授業改善の方法

半期で理論の基礎内容を、と授業を進めたが、少しついていきにくい学生、またこちらもわかりつつ急いでしまった傾向があった。出来れば、一年間同じ教師で多少後期にズラセたり出来るなら、もう少し学生に歩みよれたように思う。でも基本的な事は学んでもらえたので、復習にもう少し時間をかけていけたら、と思う。

教員による授業アンケート (2015年度 前期)

教員名 : 中島 倍代 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 音楽Ⅲ **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 55321ba **授業形態** : 演習 **受講者数** : 7名 **回答者数** : 5名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	-	5	-	-	-	-	-	4	-	-	1

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.00		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 -	90分 程度 20.0%	60分 程度 20.0%	30分 程度 60.0%	ほとんど していない -	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 -	90分 程度 20.0%	60分 程度 -	30分 程度 80.0%	ほとんど していない -	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.40		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった 20.0%	やや 高かった 20.0%	適切 であった 60.0%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	4.20		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	ある程度 注意していた	注意する 必要は なかった 60.0%	注意 していた 20.0%	ある程度 注意 していた 20.0%	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	5	4.60		■				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	3	4.40		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	4.60		■				

1 授業の概要、特徴等

90分授業を2つに分け、クラス授業と個人レッスンを受講する。学生の前半はクラス授業→個人レッスン 学生の後半は個人レッスン→クラス授業 の順に受講する。クラス授業では、子供の歌の様々な伴奏付けを練習する。個人レッスンでは、グレードに従ってピアノのレッスンを受ける。また、教育実習の実習園指定の課題曲の練習も行う。

2 アンケート結果に対する見解

個人レッスンに於ける個人の感想がバラバラであった事に軽いショックをうけた。非常に熱心に取り組む学生とあまり前向きでない学生の温度差は感じながら授業を進めていたが、善処しきれなかったと感じる。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

殆どどの学生が目標達成できた。授業開始グレードの取得が単位認定となり、殆どが次のグレードに入る事が出来た。

4 授業改善の方法

他のピアノの授業と2つ受講している学生が多く、練習時間の確保に苦心していた。結果、この授業を断念する学生が続出したのは、残念だった。今よりもっと短いセンテンスの反復練習を徹底させ、授業後の自習や次のレッスンの繋げられるようにしたい。

教員による授業アンケート (2015年度 前期)

教員名 : 谷口 明子 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 家庭科教育法 **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 53045 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 6名 **回答者数** : 6名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	-	6	-	-	-	-	-	6	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.50		■ ◆				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 16.7%	30分 程度 16.7%	ほとんど していない 66.7%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 -	30分 程度 -	ほとんど していない 100.0%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.67		■ ◆				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった -	やや 高かった 16.7%	適切 であった 83.3%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	4.67		■ ◆				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意する 必要は なかった	注意する 必要は なかった 100.0%	注意 していた -	ある程度 注意 していた -	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	4.83		■ ◆				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.50		■ ◆				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.83		■ ◆				

1 授業の概要、特徴等

小学校家庭科の授業についてその変遷や学習内容・評価のしかたを学ぶ。模擬授業を構築しながら、その実際について、教材研究の大切さや実践的・体験的に学ぶとは、という家庭科教育の目標を意識した授業を進める。

2 アンケート結果に対する見解

私自身、そして、学生たちのアンケート結果からも一致するように、まじめに熱心に授業を受けていた。特に私から教えるだけでなく、体験させるようにした場面では、とても熱心であった。自らが体験することを通して子どもたちはどんなところつまずくか、そのためには、どういう手だてが必要か、を実践的に学んでもらうことができたと思う。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

学生のニーズや理解の様子を確かめつつ、授業の目標と合致するような授業を作っていきたい。

4 授業改善の方法

事後の学習課題も時々は、設定したい。そのことで学んだことがより定着し、学生の意識が高まるように図りたい。より実践的な内容を授業に取り入れることを心がけたい。

教員による授業アンケート (2015年度 前期)

教員名 : 中村 恵 **職名** : 准教授 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 教育原理 **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 51070abc **授業形態** : 講義 **受講者数** : 69名 **回答者数** : 61名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	1	59	1	-	-	-	-	57	-	1	3

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.30		■ ◆				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 3.3%	90分 程度 3.3%	60分 程度 4.9%	30分 程度 21.3%	ほとんど していない 67.2%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 3.3%	90分 程度 1.6%	60分 程度 1.6%	30分 程度 24.6%	ほとんど していない 68.9%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	4	4.38		■ ◆				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった 11.5%	やや 高かった 47.5%	適切 であった 41.0%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	4.34		■ ◆				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意する 必要は なかった 11.5%	注意 していた 62.3%	ある程度 注意 していた 24.6%	あまり 注意して いなかった 1.6%	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	4.21		■ ◆				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.11		■ ◆				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	4.28		■ ◆				

1 授業の概要、特徴等

教育の主体となる教育者としての子ども観・教育観を深め、これまでの保育政策・教育改革の動向を理解する。さらには、これからの教育の課題を把握する。学生自身が考えて主体的に授業に参加できるように授業を構築している。

2 アンケート結果に対する見解

授業前の調べ学習や、レポート課題など、授業以外での学修時間を意識した内容としたが、それらをしたという自覚が学生になく、アンケートに反映されていないように思う。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

1. さまざまな教育理論を踏まえた子ども観・教育観について説明できる 2. 保育政策・教育改革の動向について説明できる
3. これからの教育の課題について述べるができる 以上3つの観点から評価を行っている。単位認定については、グループディスカッションへの参加度やプレゼンテーション等も総合的に評価している。

4 授業改善の方法

常に学生からの意見を意識し、できるだけ主体的に授業に参加できるように心がけている。

教員による授業アンケート (2015年度 前期)

教員名 : 梶田 萬理子 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 教職入門 **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 51042 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 12名 **回答者数** : 11名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	11	-	-	-	-	-	-	11	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.27		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 -	30分 程度 72.7%	ほとんど していない 27.3%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 -	30分 程度 45.5%	ほとんど していない 54.5%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	4	4.27		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった -	やや 高かった 9.1%	適切 であった 81.8%	やや 低かった 9.1%	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	4.36		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	ある程度 注意していた	注意する 必要は なかった -	注意 していた 81.8%	ある程度 注意 していた 18.2%	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	5	4.36		■				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.27		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.55		■				

1 授業の概要、特徴等

教職の意義及び教員の役割、職務内容を講義する。また、進路選択に資する各種の機会の提供などを行う。教育現場の経験をもつ教師の話をもとにしたり、学生各自の学校や教師に関する思いやイメージをふり返ったりしながら、教職の特質や意義、難しさなどについて具体的に考察を深められるようにする。そして、教職を目指して学ぶ際に、何が必要かを理解し、そのための心構えをつくるとともに、教職に就いた際に、自分の実践を深めていける素地を形成することを目指して進めた。

2 アンケート結果に対する見解

忙しそうに大学生生活を送っている学生を前にすると、事前学習はこの科目では最低限にしたいと思い提示してきた。視聴覚教材を取り入れる予定だったが、教室の関係もあり、プリントで進めることが増えたので反省している。学生同士のコミュニケーションに重きを置き、互いの良さを認め合う機会が増えることを願って進めてきた。教職を目ざそうとしている学生とその意識が弱い学生の思いが結果に出ているように思える。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

授業の目標のうち、「職業人としての教員について理解し、各自の進路選択について考えることができる。」については、これからの時間も必要だから、そのきっかけになれば良いと考えている。成績評価基準と単位認定は、適切であったととらえている。

4 授業改善の方法

学生の表現能力を高める必要を感じたので、公的な場で話す機会を増やしてきた。今後も、授業の中で発言する場を多く取り入れたいものである。また、自分の考えをもつ時間を保障し、書きながら思考する場を増やしたいと思う。さらに、学生達の心が動く教育実践の紹介に努め、目ざしたい教師像を豊かにしていきたい。

教員による授業アンケート (2015年度 前期)

教員名 : 重松 敬一 **職名** : 教授 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 算数 **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 55140 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 12名 **回答者数** : 12名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	12	-	-	-	-	-	-	12	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均					
					1	2	3	4	5	
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	5	4.00		■					
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 8.3%	60分 程度 8.3%	30分 程度 50.0%	ほとんど していない 33.3%	無回答 -		
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 8.3%	90分 程度 8.3%	60分 程度 8.3%	30分 程度 58.3%	ほとんど していない 16.7%	無回答 -		
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	3.83		■					
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや 高かった	非常に 高かった 8.3%	やや 高かった 41.7%	適切 であった 50.0%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -		
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	3.67		■					
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意する 必要は なかった -	注意 していた 33.3%	ある程度 注意 していた 50.0%	あまり 注意し ていなかった 16.7%	全く 注意し ていなかった -	無回答 -		
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	3.58		■					
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	3.75		■					
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.08		■					

1 授業の概要、特徴等

本授業の到達目標は次の2つであり、ポイントを→で示している。(ア) 算数教育において、関心・意欲・態度や数学的な考え方の目標設定を理解し、学習指導案作成のプロセスを理解する。(イ) 数学的及び社会的な視点で考察し、算数科教育の意義を理解する。→ 目標設定にあるポイントは授業の各回のポイントを写真なども利用して解説し、それを踏まえて、レポートに向けて、数学的・社会的な視点から算数科教育の意義などを一層理解するとともに、学習指導案作成への教材研究を課題とした。

2 アンケート結果に対する見解

学生は、12名と倍増したが、一名の大学終了・社会人経験者を除いて、昨年度と同じように高校を卒業したばかりであり、小学校の算数の学びを想起させたものの、現在の算数の課題や指導上のポイントなどへのイメージ化はやはり難しかったようである。それでも、各項目の平均値はすべて上昇していた。他のテキストを購入させることは避け、学習指導要領解説をテキストとしたものの、それでも読むのが難しい(用語など)ようで、プリントを使つての授業とした。その結果が、今年度も「プリントが多い」という反応であり、学生の状況や求められるものを考慮しての展開を図ったが、教員の期待との齟齬が大きかったと考えられる。アンケート実施の時間をレポート課題への予備発表会の時期に行った結果、課題の理解、算数教育の理解が少し改善できたようであった。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

算数教育のポイントの理解と教材研究を目標達成として、授業の参加意識・小課題の達成・レポートの達成で判断し、92, 70, 83, 75, 80, 74, 65, 70, 70, 70, 95, 60で単位認定した。

4 授業改善の方法

今年も公開講座で小学生に実際に接した学生は、子どもへの支援の難しさを知ったようなので、授業での具体的な事例による説明や討議などをより重視するように今後とも授業改善を図りたい。

教員による授業アンケート (2015年度 前期)

教員名 : 小田桐 和代 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 児童館の機能と運営 **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 53319 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 12名 **回答者数** : 9名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	-	9	-	-	-	-	-	9	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	3.78		■ ◇				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 11.1%	60分 程度 -	30分 程度 11.1%	ほとんど していない 77.8%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 11.1%	60分 程度 -	30分 程度 11.1%	ほとんど していない 77.8%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.00		■ ◇				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや 高かった	非常に 高かった -	やや 高かった 33.3%	適切 であった 66.7%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	4.11		■ ◇				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意す る必要 はな かつ た 22.2%	注意 して いた 33.3%	ある程 度注 意し てい た 33.3%	あま り注 意し てい な かつ た 11.1%	全 く注 意し てい な かつ た -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	4.00		■ ◇				
総 合 評 価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	3.63		■ ◇				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	4.00		■ ◇				

1 授業の概要、特徴等

児童館の運営管理、特に法令遵守、権利擁護、個人情報の保護及び肖像権や著作権について講義した。中でもコンプライアンス及び情報セキュリティに関する法律について説明と事例検討を行い、児童館で起こり得るケースについて話し合う時間を設けた。児童厚生員・放課後児童支援員の職場倫理については、コミュニケーション能力の向上を図るためのポイントや児童館指導員としての資質について演習形式を取り入れた講義とした。

2 アンケート結果に対する見解

受講態度について、居眠りが目についた為、出来る限り演習を取り入れたり発言を促す様心掛けた。プリントや視聴覚教材は、授業の理解促進に一定の効果がある。学生の将来に役立つと思うかについて、「そう思う」と「どちらとも言えない」が同じであったが、将来の進路を明確に決めている学生にとって児童館についての講義が目的外の場合もある。その点が受講態度に反映されている。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

授業の目標は達成されたと思う。成績評価基準及び単位認定について時に問題は特に課題は無し。

4 授業改善の方法

授業の理解を促進するためのプリントや視聴覚教材を必要に応じて取り入れる。また、今まで実施した演習や事例検討は、授業を分かりやすくする為には有効と考える。

教員による授業アンケート (2015年度 前期)

教員名 : 大角 玲子 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 児童館の機能と運営 **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 53319 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 12名 **回答者数** : 9名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	-	9	-	-	-	-	-	9	-	-	-

評価項目	教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
		1	2	3	4	5		
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	5	3.78	■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 - 90分 程度 11.1%	60分 程度 - 30分 程度 11.1%	ほとんど していない 77.8%	無回答 -		
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 - 90分 程度 11.1%	60分 程度 - 30分 程度 11.1%	ほとんど していない 77.8%	無回答 -		
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.00	■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや 高かった	非常に 高かった - やや 高かった 33.3%	適切 であった 66.7%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	4.11	■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意する 必要は なかった 22.2%	注意 していた 33.3%	ある程度 注意 していた 33.3%	あまり 注意し ていな かった 11.1%	全く 注意し ていな かった -	無回答 -
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	4.00	■				
総 合 評 価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	3	3.63	■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	4.00	■				

1 授業の概要、特徴等

オムニバス形式で、講師が複数(4名)で担当した部分についての評価、具体的な意見は見られなかったが、新しい知識を増やす部分においては各講師鋭意努力し、一定のものは得られたと思うが、連続した授業の中での考察の深まり、安定した学生と講師との関係性が提供できるに至らなかった点が大変残念である。

2 アンケート結果に対する見解

学生の授業への取り組み方と同様、アンケートへの取り組み方自体にも個人差が感じられる。本人が「理解できた」、とした学生が本当に授業が理解できていたかが甚だ疑問である。授業が分かりやすかったかどうか、という点においても、自身の授業内容、進め方、時間配分への具体的反省はあるものの、学生の理解度、意欲の程度の基準をどの辺りに置くのが適切かは大変悩ましいところであった。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

小テストを実施したことで、児童館、放課後児童クラブの法的根拠や機能について短期的記憶としての知識は一時的に備わったようで、満点を取った学生もいた。しかし、「児童館と放課後児童クラブの違い」「遊びの効果」など、授業の中で自分たちで発表したり、考察したりする部分においては、理解度、考察の深まりに大きな差が生じていた。学生にとっては、「テスト」と名のつく評価方法は抵抗があったようではあるが、目標達成度、評価の基準としては必要なものであると思う。

4 授業改善の方法

今回、4名が同じ神戸市社会福祉協議会所属であったため、共有のファイルを作成し、講義の流れが途切れないう、また内容に重複を避けるべく努めたため、別所属の複数講師で担当するよりはまとまりのある講義ができたのではないかと考える。しかし、学生個人の資質や、理解度を把握するにはやはり1名あたりの時間数が少なかったのも事実である。講師側の都合で申し訳なかったが、複数でも2名程度で授業にあたるのが適切である。

教員による授業アンケート (2015年度 前期)

教員名 : 古田 説子 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 児童館の機能と運営 **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 53319 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 12名 **回答者数** : 9名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	-	9	-	-	-	-	-	9	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	3.78		■■■■■◇				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上 -	90分 程度 11.1%	60分 程度 -	30分 程度 11.1%	ほとんど していない	77.8%	無回答 -
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 11.1%	60分 程度 -	30分 程度 11.1%	ほとんど していない	77.8%	無回答 -
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	4	4.00		■■■■■◇				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや 低かった	非常に 高かった -	やや 高かった 33.3%	適切 であった 66.7%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	3	4.11		■■■■◇				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	ある程度 注意していた	注意する 必要は なかった 22.2%	注意 していた 33.3%	ある程度 注意 していた 33.3%	あまり 注意して いなかった 11.1%	全く 注意して いなかった	-	無回答 -
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	4.00		■■■■■◇				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	3.63		■■■■◇				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	3	4.00		■■■■■◇				

1 授業の概要、特徴等

担当授業は、児童厚生員2級資格取得のための一つの科目で、一日2単元ずつ90分通す形で行った。担当教員は、児童厚生員の現職者であるため、全時間通してひとりで担当する余裕がなく4人で担当、学生さんには、かなり無理な形であった。また我々教員は、現職者向きの児童厚生員資格研修会の講義は経験があるが、その講義を15単元に分けて行う、大学での授業が不慣れであったが、現職でしか伝えられない現場の様子を伝えることを特徴とした。

2 アンケート結果に対する見解

4人の担当教員が、大学での授業運営が不慣れであること。一人が1日2日しか出向かないこと。学生さんは、この科目が卒業に必要な単位ではなく、資格取得のための授業だということ、即将来の就職などに役立つ資格でないことを考慮すると、当科目アンケート結果が、全体平均以下のこの程度であることは、納得できる。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

児童厚生員資格を出す児童健全育成推進財団示す単元内容が27年度より変更され「児童館の機能と運営」名称から「児童館論」となり、参考図書が授業開始日に間に合わないなど、事業目標が、あやふやなスタートにもかかわらず、一応12名の受講者が最後まで脱落者なく、追試も受講していただいたことは、評価できる。

4 授業改善の方法

担当教員として、現職の児童厚生員を起用していただくことは、大変うれしいことであるが、時間調整が大変むづかしかった。後期事業でアドバイザーとして起用していただく形の方が無理なく続けられるかと思う。また、子ども子育て三法改正などで、児童の健全育成に関係の変更や、放課後児童支援員資格など導入に伴い。この分野は大きく変革時期であるため、そこを見極めた事業改善をすべきかと思う。

教員による授業アンケート (2015年度 前期)

教員名 : 廣岡 正昭 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 社会科教育法 **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 53015 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 6名 **回答者数** : 6名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	2	4	-	-	-	-	-	6	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価				
					■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.33		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 -	30分 程度 66.7%	ほとんど していない 33.3%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 16.7%	30分 程度 33.3%	ほとんど していない 50.0%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.67		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった -	やや 高かった 66.7%	適切 であった 33.3%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	4.50		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意する 必要は なかった	注意する 必要は なかった 66.7%	注意 していた -	ある程度 注意 していた 16.7%	あまり 注意して いなかった 16.7%	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	4.50		■				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.33		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.67		■				

1 授業の概要、特徴等

小学校社会科の学習指導に際して必要な「学習させるべき内容」と「学習の指導方法」の両面について授業をしましたが、15回の授業で「内容」と「方法」の両面を学習指導要領のすべての分野にわたって取り扱うのはやや無理があるように思います。「内容」面については、背景となる「地理」「歴史」「政治経済」と言った分野の学習野充実が仮題だと考えます。「方法」面では、授業展開の仕方について詳しく学習できたと思います。

2 アンケート結果に対する見解

学生の皆さんは熱心に意欲的に受講してくれました。途中で教育実習が入ったりして欠席を余儀なくされた場面もありましたが、少人数のおかげで補充しながら授業できました。「内容」面については、学習を個人でできるように教材を渡したり、「方法」面では具体的な授業展開例をできるだけ多く提示したり、学生自身で授業を構想してもらった場面を作ったりした結果、授業のイメージをある程度つかんでもらえたのでないかと考えます。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

小学校社会科の学習指導に必要な「内容」と「方法」の両面を八割程度は学習できたと考えます。授業への参加態度、仮題への取り組み、ワークシートへの記述内容と試験問題への解答から小学校社会科の学習指導に必要な「内容」と「方法」の両面についての力を評価対象としました。成績評価基準は、小学校社会科の学習指導において最低限求められるレベルをもって合格とし、単位認定しました。

4 授業改善の方法

授業改善の課題は、第1には「内容」面について背景となる「地理」「歴史」「政治経済」と言った分野の学習の充実が必要だと考えます。第2には、学生に実際の学習指導案づくりの機会を増やすことが必要だと考えます。

教員による授業アンケート (2015年度 前期)

教員名 : 山口 直範 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 社会的養護内容 **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 53221ab **授業形態** : 演習 **受講者数** : 70名 **回答者数** : 65名

回答者内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども学科	専攻科福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉コース	食物栄養コース	ビジネスキャリアコース				
	-	63	2	-	-	-	-	64	-	1	-

評価項目	教員の自己評価	学生の評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
		1	2	3	4	5		
受講態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.26	■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分以上 1.5% 90分程度 1.5%	60分程度 3.1%	30分程度 18.5%	ほとんどしていない 75.4%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	ほとんど課していない	120分以上 1.5%	90分程度 1.5%	60分程度 3.1%	30分程度 13.8%	ほとんどしていない 80.0%	無回答 -
授業内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.52	■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切であった	非常に高かった 3.1%	やや高かった 36.9%	適切であった 60.0%	やや低かった -	非常に低かった -	無回答 -
授業の進め方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	4.38	■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意する必要はなかった 6.2%	注意していた 72.3%	ある程度注意していた 21.5%	あまり注意しなかった -	全く注意しなかった -	無回答 -
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	5	4.25	■				
総合評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.31	■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.58	■				

1 授業の概要、特徴等

当科目は1年生後期、保育士必修科目の社会的養護の演習科目という位置づけである。主な内容が児童養護、障害児(者)養護を中心とする内容で構成され、演習を中心とする。演習の内容は、問題形式、ビデオ視聴後の感想文作成、ディスカッションなどである。

2 アンケート結果に対する見解

それぞれの項目が平均よりも高い水準であった。これにおごることなく今後もより良い抗議に努めていきたい。予習復習の実施率が低かったのは、学生が予習であることを認識していなかったことが示唆される。本科目では毎回、講義開始時に「1週間て起きた児童養護に関する出来事」を学生に紹介している。知らなかった学生は復習として調べるように言っていたのだが、具体的な資料のある課題ではないため予習復習と認識されていなかったのではなかろうか。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

目標達成については、十分満足いく結果ではなかった。学生には、児童養護の本質を問うような洞察力や実践力を身につけてほしい。しかし、児童養護の実践において必要とされる最低限のところまでは知識が身についたように感じている。

4 授業改善の方法

【予習・復習について】今後は社会との接点をより高め、講義内容と現実社会がつながっていることを認識できるように努めていきたい。

教員による授業アンケート (2015年度 前期)

教員名 : 中島 順子 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 障害児保育 **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 53211ab **授業形態** : 演習 **受講者数** : 67名 **回答者数** : 61名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	1	59	1	-	-	-	-	60	-	-	1

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均					
					1	2	3	4	5	
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	5	4.18		■					
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 1.6%	90分 程度 1.6%	60分 程度 4.9%	30分 程度 11.5%	ほとんど していない 80.3%	無回答 -		
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 1.6%	90分 程度 1.6%	60分 程度 4.9%	30分 程度 13.1%	ほとんど していない 78.7%	無回答 -		
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.44		■					
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや 高かった	非常に 高かった 8.2%	やや 高かった 27.9%	適切 であった 62.3%	やや 低かった 1.6%	非常に 低かった -	無回答 -		
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	4.10		■					
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	ある程度 注意していた	注意する 必要は なかった 29.5%	注意 していた 31.1%	ある程度 注意 していた 31.1%	あまり 注意して いなかった 8.2%	全く 注意して いなかった -	無回答 -		
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	4.00		■					
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	5	4.18		■					
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.51		■					

1 授業の概要、特徴等

① 障害児保育を支える理念や歴史の変遷から現状について理解する ② 様々な障害について理解する(知的障害・自閉症スペクトラム障害・LD・ADHDなど) ③ 個々の発達を促すかわりとはなにかを学ぶ(障害特性に合った支援方法) ④ 具体的な援助の方法、環境構成、連携等について学び、理解する

2 アンケート結果に対する見解

学生の受講態度は、比較的良かったと思います。授業途中でトイレに行くことも少なかったです。しかし、居眠り、携帯を操作する姿は見られ、注意もしておりました。授業内容は、教科書、資料、視聴覚教材が役立つように思います。しかし、定型発達の子どものように実際に十分理解できない学生に障害児保育や保育の仕方を理解してもらうのは難しいです。学生は就職後にこの授業や教科書などが役立つことは理解していたと思います。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

障害児保育の理念や現状について、各障害の特性や子どもの姿については授業の中でも特に重要ポイントとして教えました。成績評価は作成テストの平均を70点台になるような工夫をしました。

4 授業改善の方法

自由記述に、学生の名前覚える気がない…と上げられていましたが、座席指定で顔と名前はチェックしております。学生は私の名前を覚えていませんか？ 授業の進め方はシラバスに出来るだけ合わせています。居眠りの対策の1つとして記述を入れております。書き能力に個人差があります。授業の進め方や分かりやすさは、勤務して3年目ですが、かなり簡単にしております。パソコンについては、スムーズに操作できるように点検をお願いします。

教員による授業アンケート (2015年度 前期)

教員名 : 早川 淳 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 小児保健A **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 52100ab **授業形態** : 講義 **受講者数** : 80名 **回答者数** : 68名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	66	-	1	1	-	-	-	67	-	-	1

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	3.69		■ ◆				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 1.5%	30分 程度 27.9%	ほとんど していない 70.6%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 -	30分 程度 23.5%	ほとんど していない 76.5%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	4	3.84		■ ◆				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった 10.3%	やや 高かった 29.4%	適切 であった 58.8%	やや 低かった 1.5%	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	2.94		■ ◆				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意する 必要は なかった 2.9%	注意 していた 38.2%	ある程度 注意 していた 29.4%	あまり 注意して いなかった 25.0%	全く 注意して いなかった 4.4%	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	2.87		■ ◆				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	3.54		■ ◆				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.13		■ ◆				

1 授業の概要、特徴等

乳幼児の健康を守り、心身ともに健やかに育つことや子ども自身に健康や安全を守る力を獲得させ、その力を育むことを目的とした。そして、子どもの健康と保健の意義について授業を展開した。教員が一方的に進めるのではなく、学生といっしょに考え、考察しながら進めた。内容を理解できるように毎回復習テストを課し、再度前回の授業についていっしょに考える方式を用いた。

2 アンケート結果に対する見解

結果は真摯に受けとめて、学生がいかにこの授業の内容を理解し自分のものにしていくためには何らかの方法を再度考察していかないと反省しました。理解を深めるための方法を駆使し、毎回のテストやクイズ方式等を取り入れて工夫したが私が思うようには伝わらなかったことを反省し再度、挑戦していく。アンケートに一方的に進めたと書かれているが一番、大事にしているところでは学生の意見や考えを聞きながら進めている。これはさらに進展させていく。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

この授業の目標達成は子どもの心身の発達の理解と子どもの健康安全についての理解や子ども自身が自分自身で自分の体や安全について考えることができるような幼児教育者を育てることである。そのためには授業内容を理解し、健康や安全についての知識獲得が重要であるためにテストという形で毎回試みている。それと、学生と共に授業を展開していくので質疑応答も試みているために平常の授業態度も単位認定に入れている。

4 授業改善の方法

後期の授業では、全前に学生中心に進め展開していくように工夫していきたい。そのためには問題意識や関心が得られるように、授業内容の理解度が増すように多方面から知識を得ることができるよう努力していきたい。

教員による授業アンケート (2015年度 前期)

教員名 : 山本 裕子 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 小児保健演習 **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 52121ab **授業形態** : 演習 **受講者数** : 67名 **回答者数** : 64名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	1	61	2	-	-	-	-	63	-	-	1

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	3	4.17		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 3.1%	90分 程度 1.6%	60分 程度 3.1%	30分 程度 18.8%	ほとんど していない 73.4%	無回答	-
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 3.1%	90分 程度 1.6%	60分 程度 3.1%	30分 程度 18.8%	ほとんど していない 73.4%	無回答	-
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.17		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった 10.9%	やや 高かった 31.3%	適切 であった 56.3%	やや 低かった 1.6%	非常に 低かった -	無回答	-
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	4.00		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	あまり 注意し てい なかつ た	注意す る必 要は なかつ た 12.5%	注意 してい た 48.4%	ある程 度注 意し てい た 25.0%	あま り注 意し てい なかつ た 14.1%	全 く注 意し てい なかつ た -	無回答	-
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	5	3.84		■				
総 合 評 価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.13		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	4.45		■				

1 授業の概要、特徴等

この授業では、子どもの発育発達状態を理解するとともに、子どもの病気の予防や健康教育、疾病の早期発見及び看護、応急手当、安全な保育環境を整える知識と技術を学ぶ。また、子どもの養護に必要な姿勢も身に付ける。授業展開としては、講義の演習の二部構成で行った。

2 アンケート結果に対する見解

授業の進め方に関する項目で「教員は学生の理解度に配慮しながら授業を進めてきたか」についての項目が3.84と最も低かった。これは教員自身も毎回そこに重点を置いて授業準備を課してきたが残念だ。初めての勤務校ということもあったので、学生の大まかな学習のレディネスの状況が把握できていなかったことも考える。授業中私語が多く、それが周りの学生に迷惑となるような状況が続いたことがあった。それが授業の進め方に影響しているとも思える。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

この授業の学修の成果として、以下の5項目を挙げている。それについて、授業参加度20%、授業理解度80%の評価基準で概ね達成できた。1. 子どもの成長と発達、生理的機能の観察について理解し、健康状態の把握ができる。2. 子どもの基本的な生活習慣の獲得への援助ができる。3. 日常生活の養護にかかわる健康教育を理解することができる。4. 保育のなかでの基礎となる看護技術や症状に対する看護を理解できる。5. 子どもの安全と事故防止、応急手当や救急蘇生法を習得する。

4 授業改善の方法

授業をスムーズに進行するために学生の座席指定を行い、まず授業に臨める学習環境を教員側から整える。

教員による授業アンケート (2015年度 前期)

教員名 : 田中 善大 **職名** : 講師 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 相談援助演習 I **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 53320bc **授業形態** : 演習 **受講者数** : 67名 **回答者数** : 60名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	-	56	4	-	-	-	-	58	-	2	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.32		■ ◆				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上 1.7%	90分 程度 6.7%	60分 程度 3.3%	30分 程度 35.0%	ほとんど していない 53.3%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上 1.7%	90分 程度 5.0%	60分 程度 1.7%	30分 程度 31.7%	ほとんど していない 60.0%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	4	4.27		■ ◆				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった 1.7%	やや 高かった 23.3%	適切 であった 73.3%	やや 低かった 1.7%	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	4.50		■ ◆				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	ある程度 注意していた	注意す る必要 はな かった 31.7%	注意 してい た 48.3%	ある程 度注 意し てい た 18.3%	あま り注 意し てい な か つ た 1.7%	全 く注 意し てい な か つ た -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	4.45		■ ◆				
総 合 評 価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.10		■ ◆				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.37		■ ◆				

1 授業の概要、特徴等

学生が演習を通して、保育所等の児童福祉施設で展開される相談援助についての基礎的な概念と具体的な援助の方法について学ぶ機会を提供した。毎回演習を実施し、学生自身が取り組む中で、相談援助の概念や技術について主体的に考え、学びを深められるように授業を展開した。演習は、グループで話し合うものを多く取り入れることで、他者の意見からも新しい気づきが得られるようにした。また、授業外の学習行動を促進するために、授業の開始時に小テストを頻繁に実施した。

2 アンケート結果に対する見解

アンケート結果から、多くの項目が平均点と同程度または上回っていたことから、本授業の内容、形式は概ね受講生に適したものであったことが推察される。選択設問⑩-3の当科目の平均が全体平均よりもやや低いものであったことから、授業内容と学外実習との関連について、学生に意識させるように授業を展開する必要がある。本授業は、保護者支援に関する内容であるため、実習では直接意識し難いことが予想されるため、この点について工夫が必要であると考えられる。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

授業内試験、演習課題、受講態度、提出物の状況から単位認定を行った。多くの受講生が、学修成果を達成し、単位の認定を受けたことから、本授業が、学修成果の達成において適切なものであったことがわかる。

4 授業改善の方法

アンケートの結果から、授業内容と学外実習との関連について学生に意識させる必要性が示唆された。本授業は、保護者支援に関する内容が中心となる。実習中に学生自身が直接保護者支援を行う場面はほとんどないことが予想されるため、現場の保育者の保護者支援の様子を観察したり、保育者から保護者支援の話を聞くことで授業内容と実習とを関連づけることが可能となる。今後の授業では、内容をより実践的に理解するために、実習中にどのような取り組みを行うことが有効かを学生に積極的に伝えることで授業改善を行う予定である。

教員による授業アンケート (2015年度 前期)

教員名 : 吉川 れい **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 造形美術 **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 55500abc **授業形態** : 演習 **受講者数** : 81名 **回答者数** : 66名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	63	-	1	2	-	-	-	63	-	-	3

評価項目	教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
		1	2	3	4	5		
受講態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	5	3.92	◇				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分以上 4.5%	90分程度 -	60分程度 7.6%	30分程度 10.6%	ほとんど していない 77.3%	無回答 -
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分以上 6.1%	90分程度 1.5%	60分程度 6.1%	30分程度 10.6%	ほとんど していない 75.8%	無回答 -
授業内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	3	3.59	◇				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや 高かった	非常に 高かった 13.6%	やや 高かった 22.7%	適切 であった 59.1%	やや 低かった -	非常に 低かった 3.0%	無回答 1.5%
授業の 進め方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	3.95	◇				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意する 必要は なかった 12.1%	注意 していた 54.5%	ある程度 注意 していた 25.8%	あまり 注意して いなかった 3.0%	全く 注意して いなかった 3.0%	無回答 1.5%
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	3.83	◇				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	3.94	◇				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	4.11	◇				

1 授業の概要、特徴等

実技を中心とした授業。現場で指導できるよう考え、実習する。実習等で幼児が体験するものと同じものを制作するのではなく、学生が達成感を持つことができるよう課題を設定している。絵をかくことに苦手意識を持つものが大変多く、今年はいくより作る方に時間を割いている。そのため制作後にはスケッチを伴ったレポートを課してそれを補っている。

2 アンケート結果に対する見解

授業の様子から予想できたが、レベルが高いと感じている学生が多かった。しっかりした課題で達成感と実力をつけてほしいと考えているためであるのだろうし、欠席があれば遅れが生じてくるからであろう。スケッチブックにコメントを入れたり、放課後の作業時間の確保で対応しているが、本人の自覚なしには効果が少ないのだろう。他の授業の提出時期には欠席や内職が多いため、提出機会や課題の順番など考えてみたい。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

大きな課題が3つとそれに関するレポートが4つ(全て提出)の得点とスケッチブックへの書き込み、授業態度、出席状況、後片づけの様子などを総合的に判断して単位認定している。課題の得点については、参考作品を提示し説明しており、それを基準に評価している。手数(てかず)の多いもの、努力の跡があるものを積極的に評価している。

4 授業改善の方法

その年の学生の様子をみて勇気をもって授業計画を変更する必要がある。毎年そう思っているし、今年もそうしたつもりであるが実施にむけてはもっと大胆な変更があってもよかっただろう。制作スピードの差や、クラス間の差についてはいつも考えさせられる。今後は、放課後の指導、スケッチブックへのアドバイスの記入に加え、課題の精選とともに、提出機会を増やし、最終の提出日にむけて大幅に遅れる学生がないようにしたい。

教員による授業アンケート (2015年度 前期)

教員名 : 北澤 太野 **職名** : 講師 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 体育 **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 55600abc **授業形態** : 演習 **受講者数** : 80名 **回答者数** : 66名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	64	-	1	1	-	-	-	66	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均					
					1	2	3	4	5	
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.14		■					
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 4.5%	60分 程度 22.7%	30分 程度 47.0%	ほとんど していない 25.8%	無回答 -		
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 1.5%	90分 程度 1.5%	60分 程度 24.2%	30分 程度 40.9%	ほとんど していない 31.8%	無回答 -		
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	4	3.94		■					
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや 高かった	非常に 高かった 10.6%	やや 高かった 18.2%	適切 であった 66.7%	やや 低かった 1.5%	非常に 低かった 1.5%	無回答 1.5%		
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	4.02		■					
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意する 必要は なかった 9.1%	注意 していた 68.2%	ある程度 注意 していた 21.2%	あまり 注意して いなかった 1.5%	全く 注意して いなかった -	無回答 -		
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	4.22		■					
総 合 評 価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.15		■					
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	4.45		■					

1 授業の概要、特徴等

授業では、運動指導や体育授業を行うために必要とされる知識や技能を身につけるために、身体を動かすだけでなく講義も行った。また、指導者に必要な運動・スポーツに関する基礎知識、補助や援助の方法について学ぶ場として、模擬授業・模擬保育を実施した。そこでは少人数のグループで授業・保育計画を立案し、実施した。その後、クラス全体で反省会を開き、実践上のポイントや指導方法について確認した。

2 アンケート結果に対する見解

選択設問⑩から本授業のねらいや目的として説明した「体育授業や運動指導を行う者という視点で学ぶ」ということを意識して授業に臨んでくれていた学生が多かったこと、⑩自由記述から、模擬授業・模擬保育が指導者側に立つことの難しさを体感する機会になっていたことがわかる。その一方で受講態度②、③から予習・復習について、学生間で差があるように思われる。今後は、授業時間毎に予習や復習の観点を示すとともに、各学生の理解度に合わせた個別の対応が必要だと考える。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

本授業を履修した学生は、授業内で説明した幼児期・児童期における身体活動の特徴や課題、指導上のポイントを踏まえ、模擬授業を計画、運営、反省した。こうした一連の取り組みを受講態度、レポート、模擬授業の運営に用いた指導案の内容から総合的に評価し、単位を認定した。

4 授業改善の方法

受講を通して向上する学生の意欲を指導案の作成やグループワークの中で活かせるような課題を出し、事前学習や事後学習を促したい。また、身体活動が伴う授業ということもあり、授業の雰囲気への配慮に対してさらに注意を払う必要がある。説明が全員に伝わったかどうかを確認しながら授業を進めるようにしたい。

教員による授業アンケート (2015年度 前期)

教員名 : 中園 大三郎 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 特別活動の指導法 **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 53060 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 6名 **回答者数** : 6名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	1	5	-	-	-	-	-	6	-	-	-

評価項目	教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価					
				■ 学生の評価平均					
				1	2	3	4	5	
受講態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	5	4.17		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分以上 -	90分程度 -	60分程度 -	30分程度 50.0%	ほとんどしていません 50.0%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分以上 -	90分程度 -	60分程度 -	30分程度 16.7%	ほとんどしていません 83.3%	無回答 -	
授業内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.50		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや高かった	非常に高かった 16.7%	やや高かった 66.7%	適切であった 16.7%	やや低かった -	非常に低かった -	無回答 -	
授業の進め方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	3.67		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意する必要はなかった	注意する必要はなかった 83.3%	注意していた -	ある程度注意していた 16.7%	あまり注意していません -	全く注意していません -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	5	3.50		■				
総合評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	5	4.00		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.33		■				

1 授業の概要、特徴等

特別活動の目標に則して、その理論と実践の融合を図る授業をシラバス内容に基づいて行った。授業の特徴は、学生の自主的な学修環境づくりの工夫の中で、特別活動の理論の理解を深めるとともに、教職に就いた際に活かしていける実践内容等を多様に取り上げて指導した。例えば、学修理解を深めるアクティブラーニングも意識して、学生全員による毎時の3分スピーチ発表、話し合いを重視した学級会の実習、人間関係醸成の集会活動の実習、学生同士の意見交流・演習の場の設定、適度な記録作業導入、さらには、授業内容に関する映像資料や関係資料を積極的に活用し、学生の理解の促進・定着を図った。

2 アンケート結果に対する見解

いつも、毎時の授業の目標提示と分かり易い授業内容の展開、学生との信頼関係を大事にしてきたこと、そして学生たちも熱心に授業を聞いていたことは学生たちと互いに共有のできた認識であった。アンケートの一部に期待はずれの部分があることは、受講学生6名といった少人数アンケートの妥当性・信頼性の得られにくい面が出ている。(一人の極端な評価に全体値が大きく影響している。)記述作業の苦手な学生がいるので、今後、指導改善を検討したい。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

授業内試験、自主的な受講姿勢、提出物の状況等を総合的に判断して単位認定を行った。多くの学生が、学修目標・内容を理解したことから、本授業のシラバス内容や成績基準等は適切なものであったと理解している。

4 授業改善の方法

1単位の限られた授業時間には、収まらない指導内容がある。今後、必要な指導内容の精選を一層図りたい。

教員による授業アンケート (2015年度 前期)

教員名 : 安永 龍子 **職名** : 教授 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 保育(健康) **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 53100ab **授業形態** : 演習 **受講者数** : 72名 **回答者数** : 65名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	2	60	3	-	-	-	-	62	-	1	2

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.23		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 3.1%	90分 程度 -	60分 程度 1.5%	30分 程度 12.3%	ほとんど していない 83.1%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上 3.1%	90分 程度 -	60分 程度 3.1%	30分 程度 13.8%	ほとんど していない 80.0%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	4	4.35		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった 4.6%	やや 高かった 32.3%	適切 であった 63.1%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	4.34		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意する 必要は なかった 26.2%	注意 していた 43.1%	ある程度 注意 していた 27.7%	あまり 注意して いなかった 3.1%	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	4.35		■				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.15		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	4.37		■				

1 授業の概要、特徴等

領域「健康」のねらいと内容を理解し、保育者として子どもの健康を促す活動を学習する。そのために、まずは自分自身の運動や食事などの生活習慣について考え、そこから子どもの生活習慣、そして健康につながる活動について考えられるようにする。また、社会で起こっている子どもの健康を阻害していることや促進する活動についても理解して子ども健康を促す活動を理解していく。

2 アンケート結果に対する見解

授業内容では、プリントなどの教材が授業の理解に役立ったと90%以上の人が答えてはいるが、自由記述欄にあるようにDVDなどの視聴覚教材を取り入れることでさらに理解が深まるのではないかと考える。視聴覚教材の検討をしていきたい。昨年と同様受講態度としての事前・事後学習時間が平均の3分の1ほどであった。ほとんどしていない学生が80%にも及んでいた。さらなる検討が必要である。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

受講生は72名であったが、単位認定できない学生が2名いた。成績評価は、16回目に終講試験を予定していたが、16回目が捻出できず、後半にかけて中間テストと最終の筆記試験を行った。そしてその結果に、受講態度を加味して評価した。再試験者は23名、単位認定できなかったものが2名であった。

4 授業改善の方法

視聴覚教材の検討 事前・事後学習の課題や方法について検討

教員による授業アンケート (2015年度 前期)

教員名 : 石田 裕子 **職名** : 准教授 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 保育原理 **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 51051abc **授業形態** : 講義 **受講者数** : 87名 **回答者数** : 76名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	71	4	1	-	-	-	-	76	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	3.89		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 2.6%	90分 程度 3.9%	60分 程度 19.7%	30分 程度 47.4%	ほとんど していない 26.3%	無回答	-
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 2.6%	90分 程度 3.9%	60分 程度 17.1%	30分 程度 51.3%	ほとんど していない 25.0%	無回答	-
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.50		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった 13.2%	やや 高かった 48.7%	適切 であった 38.2%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答	-
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	4.39		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意する 必要は なかった 11.8%	注意 していた 75.0%	ある程度 注意 していた 13.2%	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答	-
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	4.21		■				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.20		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.65		■				

1 授業の概要、特徴等

保育の原理・原則について学ぶという授業である。1回生前期の授業ということもあり、それぞれの保育観や子ども観を共有するという目的と、多様な学生自身の人間関係形成のため、メンバーを固定しない方法でグループワークやディスカッションを多く取り入れた。2度に一度のミニツッペーパー（授業内振り返り）により、理解度を確認しながら授業を行った。

2 アンケート結果に対する見解

グループワークや、ディスカッションはおおむね好評であったようである。他者の多様な意見を知り、また自分の考えを発表するという経験を通して、より多角的な視点で保育について考えることができたようである。授業外学習時間が少ないため、促進することが必要である。また授業を受けるマナーについては、たびたび指摘することにより授業内の秩序は保たれたと考える。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

学修成果については1. 保育の理念について説明できる2. 保育の内容や方法と幼稚園教育要領や保育所保育指針の関係について説明できる3. 発達過程と保育との関係について説明できる4. 現代社会における保育の位置づけについて説明することができる、の4点であった。成績評価の基準であるが、理解度（50%） ミニツッペーパー（20%） 受講態度（30%）であり、ミニツッペーパーや、理解度の確認によると、3については、達成できたが、全体的に浅いレベルであったことは否めない。

4 授業改善の方法

時間外学習時間を増やすために、授業理解を深めるためのレポート課題等を課す必要性がある。

教員による授業アンケート (2015年度 前期)

教員名 : 増井 啓子 **職名** : 准教授 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 保育表現演習 I **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 53166abc **授業形態** : 演習 **受講者数** : 66名 **回答者数** : 57名

回答者内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども学科	専攻科福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉コース	食物栄養コース	ビジネスキャリアコース				
	-	57	-	-	-	-	-	56	-	-	1

評価項目	教員の自己評価	学生の評価平均		◇ 教員の自己評価					
		1	2	3	4	5	■ 学生の評価平均		
受講態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.46	■					
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分以上 1.8% 90分程度 1.8%	60分程度 -	30分程度 17.5%	ほとんどしていない 78.9%	無回答 -		
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分以上 1.8% 90分程度 1.8%	60分程度 1.8%	30分程度 19.3%	ほとんどしていない 75.4%	無回答 -		
授業内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	-	4.67	■					
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切であった	非常に高かった 10.5% やや高かった 8.8%	適切であった 78.9%	やや低かった -	非常に低かった 1.8%	無回答 -		
授業の進め方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	4.84	■					
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意する必要はなかった	注意する必要はなかった 38.6% 注意していた 52.6%	ある程度注意していた 8.8%	あまり注意していませんでした -	全く注意していませんでした -	無回答 -		
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	5	4.81	■					
総合評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.64	■					
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.84	■					

1 授業の概要、特徴等

幼稚園教育要領、保育所保育指針において保育内容「表現」とし設定されている。子どもは自分の思いや感じたこと、心の動きなどを自分なりに表現する。表現する経験を重ねることでイメージが膨らみ豊かな感性へとつながっていく。授業では子どもの生活や遊びの中での表現の捉え方を学び、表現する力を育てるための活動設定や援助の方法を自ら考えることができるようにする。また、子どもたちの大事な時期にかかわる保育者として、保育者自身の表現力が子どもの表現力に大きくかかわるものであるから、自分自身の表現力も見直し、豊かにしていくことを目指す。

2 アンケート結果に対する見解

演習科目であるため、学生自身が主体的に考えたり、活動したりする時間をできるだけ多くもった。また、すべての学生が活動に取り組めるように具体的でわかりやすい指示を意識した。身体的活動や音楽的活動(歌う、踊る、リズムに合わせる)造形活動(身近な素材を使って作る、描く、環境を構成する)など保育技術にかかわる教材についても取り入れた。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

授業への参加態度・演習取組態度 (20%) 表現に対する発表 (50%) レポートや作品などの課題提出物 (30%)

4 授業改善の方法

授業を受ける人数の割に講義の部屋が狭いため、場の設定を考えていく必要がある。特に保育の中で実際に展開していく活動となると場の構成が難しい。

教員による授業アンケート (2015年度 前期)

教員名 : 奥田 尚子 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 保育(表現・音楽) **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 53141aa・bb **授業形態** : 演習 **受講者数** : 11名 **回答者数** : 11名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	-	10	1	-	-	-	-	9	-	1	1

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均						
					1	2	3	4	5		
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	5	4.73		◇						
	② 事前学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 9.1%	90分 程度 9.1%	60分 程度 45.5%	30分 程度 36.4%	ほとんど していない	-	無回答	-	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 9.1%	90分 程度 9.1%	60分 程度 45.5%	30分 程度 36.4%	ほとんど していない	-	無回答	-	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.82		◇						
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや 低かった	非常に 高かった 9.1%	やや 高かった 36.4%	適切 であった 54.5%	やや 低かった	-	非常に 低かった	-	無回答	-
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	4.73		◇						
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意する 必要は なかった	注意する 必要は なかった 72.7%	注意 していた 18.2%	ある程度 注意 していた 9.1%	あまり 注意して いなかった	-	全く 注意して いなかった	-	無回答	-
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	5	4.64		◇						
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.55		◇						
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.82		◇						

1 授業の概要、特徴等

音楽Ⅰ音楽Ⅱの学習成果をふまえて 保育現場での実践力として 子供の歌に 和音伴奏をつけかつ曲の雰囲気に合わせアレンジすることが出来るようにし、弾き歌いする グレード制が導入された

2 アンケート結果に対する見解

予想以上良い結果であった 熱心に取り組んでいた姿勢が結果に反映している。自分で考え 工夫することでやりがいと手ごたえを感じながら 授業を受けていたと思われる 個々の能力に合わせ 指導する為 学生とコミュニケーションがよく取れた グレード制導入で 進捗状況が自覚出来 中だるみが軽減したと思う

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

カデンツ コードネームを理解し子供の歌の伴奏を考える力を養う 沢山の持ち曲を作る しっかりと弾き歌いする 大半の学生が目的達成していた

4 授業改善の方法

新体制の1年目のため 全員がグレード1からスタートさせたため 中上級者から、物足りなさを感じた発言があった。上級者には グレード 1 2から10曲とかに減らし その代わりに アレンジを2種類考えるという風に課題の内容で変化つけてはどうか

教員による授業アンケート (2015年度 前期)

教員名 : 玉井 奈摘 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 保育(表現・音楽) **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 53141ab・bc **授業形態** : 演習 **受講者数** : 10名 **回答者数** : 9名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	-	9	-	-	-	-	-	9	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.44		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 11.1%	90分 程度 -	60分 程度 11.1%	30分 程度 66.7%	ほとんど していない 11.1%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 11.1%	90分 程度 -	60分 程度 22.2%	30分 程度 55.6%	ほとんど していない 11.1%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	4	4.56		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった 11.1%	やや 高かった 33.3%	適切 であった 55.6%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	4.22		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意する 必要は なかった	注意する 必要は なかった 66.7%	注意 していた 11.1%	ある程度 注意 していた 22.2%	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	4.56		■				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.22		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	4.78		■				

1 授業の概要、特徴等

個人レッスン、ML教室(グループレッスン)、フォロー(グループレッスン)からなり、全て受講して出席となる。カデンツ(I、IV、V、V7)を理解し、メロディーにふさわしい和音・伴奏形で演奏する力を身に付ける。

2 アンケート結果に対する見解

音感が良く、練習しなくてもその場で伴奏付けができる学生もいたが、それを見て同じように準備をしない学生が多かった。そのような学生が練習しなければ⑤からわかるように、レベルが高かったと感じるのは当然のことであり、苦手でもきちんと準備をしていた学生は課題に追われることなく余裕をもって終えていた。個人の見解としては、そこまでレベルの高いものではなかったと感じている。しかし、一回生の授業では用意された楽譜を正確に演奏することを求められていた為、そういった点では学生にとって初めてのことであり、慣れない部分が難しさにつながったのではないかと感じている。③の結果と同様、他の教科の課題等で時間が取れないと嘆いている学生も多く見られた。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

こどものうたのメロディー譜を見て弾き歌いをする。左手の和音の簡単な進行パターンを理解し、与えられた譜面から伴奏を考え、保育士として現場で実践できる力を身に付ける。課題曲はグレード別になっており、グレード1・2からそれぞれ10曲合格し、発表会の点数、出席数、平常点等を合わせて評価する。(必要曲数以上合格した場合は、加点)

4 授業改善の方法

一回生の時に、繰り返しカデンツの練習をした為、I・IV・V7は難無く理解・演奏できる学生が多かったが、そこへVを加えた途端、訳が分からなくなってしまう学生が多かった。(ミーティングにて来年度改善済み) 伴奏付けに特化し、歌唱の方あまり時間が取れなかったところがあったので、もう少し歌詞の意味や音程・発声についても指導できるよう時間配分の工夫をしたい。授業終わりに次回課題の調性の確認・メロディーの弾き方について触れ、次のレッスンがスムーズになるよう改善をしたい。

教員による授業アンケート (2015年度 前期)

教員名 : 本間 晶子 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 保育(表現・音楽) **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 53141ad・be **授業形態** : 演習 **受講者数** : 10名 **回答者数** : 9名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	-	9	-	-	-	-	-	9	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.33		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 22.2%	90分 程度 11.1%	60分 程度 22.2%	30分 程度 33.3%	ほとんど していない 11.1%	無回答	-
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 22.2%	90分 程度 -	60分 程度 33.3%	30分 程度 33.3%	ほとんど していない 11.1%	無回答	-
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.44		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった 11.1%	やや 高かった 44.4%	適切 であった 44.4%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答	-
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	4.44		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意する 必要は なかった	注意する 必要は なかった 55.6%	注意 していた 22.2%	ある程度 注意 していた 22.2%	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答	-
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	5	4.33		■				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.33		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.78		■				

1 授業の概要、特徴等

授業は集団授業(45分)と、個人レッスン+フォローアップ授業(45分)の2つに分けて行われる。集団授業では適切な和音のつけ方や伴奏のつけ方を学ぶ。個人レッスンで個々の能力に応じた伴奏法や弾き歌いのバランス等、きめ細かな指導を受ける。さらにレッスン時間以外には、フォローアップ授業で、発声練習や子供の歌の歌唱などを行う。90分をフルに生かせる授業構成といえる。

2 アンケート結果に対する見解

自由記述回答に「少しずつわかってきたと思います。」とあり、地味ながら堅実な成果が表れつつある、と感じる。幾種類かの音楽の授業で繰り返し学習している事柄が、次第に結びついて、実技にも生かされていくことを今後とも期待したい。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

子供の歌に適切な伴奏をつけて弾き歌いできることを目標とする。楽曲レベルに応じて定められたグレード1～5の2までを最低限取得し、弾き歌い実技試験で合格ラインに達することが、単位認定には必要である。成績評価には、グレード新捗度などの平常点も加算される。

4 授業改善の方法

今年度は学生がさぼることなく90分を最大限に活用する授業構成であったと言える。ただ、個人レッスンの前後で個人練習をすることも効果があると思われるので、フォローアップ授業をML教室で行って教師が個人練習をサポートする時間とし、45分学生が固定する授業で、発声・歌唱及び伴奏法の講義を行うことも一案かと思われる。

教員による授業アンケート (2015年度 前期)

教員名 : 藤田 悦代 **職名** : 教授 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 幼児理解 **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 52220ab **授業形態** : 演習 **受講者数** : 65名 **回答者数** : 55名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	-	54	1	-	-	-	-	52	-	1	2

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	5	4.24		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 3.6%	90分 程度 -	60分 程度 -	30分 程度 21.8%	ほとんど していない 74.5%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 1.8%	90分 程度 1.8%	60分 程度 -	30分 程度 23.6%	ほとんど していない 72.7%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.47		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった 5.5%	やや 高かった 16.4%	適切 であった 78.2%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	4.40		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意する 必要は なかった 27.3%	注意 していた 38.2%	ある程度 注意 していた 32.7%	あまり 注意して いなかった 1.8%	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	5	4.30		■				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.27		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.48		■				

1 授業の概要、特徴等

・「子どもに心を寄せる」「保育者の温かなまなざし」など保育者の姿勢を学ぶ。 ・発達の過程を理解した適切な指導や援助について理解する。 ・子ども理解の方法を理解する。 ・保育における評価の意味や評価を行う必要性を理解し、子育て支援や保育相談の在り方を学ぶ。

2 アンケート結果に対する見解

授業のテーマを基に、現場の様子を映像やエピソードを取り入れて知らせていくことで、学生が幼児の様子をイメージしやすくなるように授業を行っていく。また、学生が思っていること、考えたことをグループワークの中で互いに出し合っていくことで、自分自身の振り返りにもなり、実習にも生かされていくと考える。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

・「子どもに心を寄せる」「保育者の温かなまなざし」など保育者の姿勢を理解しこころがけることができる。 ・発達の過程を理解した適切な指導や援助を考えることができる。 ・子ども理解の方法に基づく援助の在り方を考えることができる。 ・保育における評価の意味や評価を行う必要性を理解し、子育て支援や保育相談の在り方を説明できる。

4 授業改善の方法

・プリント資料を準備していたことから、黒板に書くときには、授業の流れに沿いながらポイントをしぼり、見やすい書き方をする。 ・学生一人ひとりが発言できるような雰囲気づくりをこころがける。

教員による授業アンケート (2015年度 前期)

教員名 : 園部 勝章 **職名** : 教授 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 理科教育法 **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 53025 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 6名 **回答者数** : 6名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	1	5	-	-	-	-	-	6	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.17		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 -	30分 程度 16.7%	ほとんど していない 83.3%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 -	30分 程度 -	ほとんど していない 100.0%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.67		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった -	やや 高かった 33.3%	適切 であった 66.7%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	4.83		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意する 必要は なかった	注意する 必要は なかった 100.0%	注意 していた -	ある程度 注意 していた -	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	4.83		■				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.17		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	4.83		■				

1 授業の概要、特徴等

小学校理科にかかわる授業49年目であった。小学校レベルの理科の授業内容が、地域や生活の場での自然にかかわる現象を読み取っていく上で大切だと知ることができました。アサガオの栽培や上皿天秤を使った経験、アルコールランプを使った実験、実験用こを使ったこと、食塩を溶かしたり塩酸でアルミニウムを溶かしたり等の経験を思い出し、自然を読みとっていく楽しさを受講者たちが語ってくれることをうれしく思いました。授業は、物理・化学・生物・地学にかかわる内容を学習指導案や教科書「授業に活かす!理科教育法」、実験を通して学んでいきました。

2 アンケート結果に対する見解

「自分の将来に役立つ」と感じてくれたように、子どもたちとの授業づくりを意識して、受講者たちが学んでくれたと思います。試験内容にもした学習指導案作りは、よく取り組んでいました。その取り組みの上で、教育実習の果たす役割は大きいものでした。小学校時代を思い出し、実験にもよく取り組んでいました。理科の学びは、実験道具や生物を通して学ぶことができることを大切にしてほしいと思っています。授業内容に関し、事前・事後の自己学習を意識しておりませんでしたので、ほとんどしていないという回答は当然なのですが、少しは自己学習をするようにしておきたいと反省します。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

授業の目標としては、小学校理科の学習指導案を書き、授業ができるようにということを目指しました。学習指導案には、学ぶ意義・到達目標・実験方法・指導上の留意点・授業の手順などがわかるように書かせました。評価基準は、定期試験における学習指導案書き、小学校理科の基礎的な内容の理解、そして、毎時間、「200字以上の感想」書き、授業中でのつぶやき、発言を大切にしました。6人の受講者は、まじめな取り組みで、学習指導案づくりもまじめにとりこんでいましたし、学びの内容への理解にも努力していました。

4 授業改善の方法

次週の授業内容が具体的に示すために、わたしの学習指導案を配布することで、事前の自己学習を促すこともひとつの方法だと感じています。受講者一人一人が、小学校時代の経験を発揮できるようにしていきたい。学習指導案づくりは、受講者の理科教育観を深めることができるようにしていきたいです。そして、物理・化学・生物・地学にかかわる内容を少しでも深く知っていく機会をふやせるようにしたいです。

教員による授業アンケート (2015年度 前期)

教員名 : 飯田 晃朝 **職名** : 非常勤 **所属** : 専攻科
科目名称 : 家事支援の技法Ⅲ:調理 **科目群** : 専攻科 福祉専攻 専門教育科目
授業コード : 7305 **授業形態** : 演習 **受講者数** : 3名 **回答者数** : 2名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	-	-	2	-	-	-	-	-	2	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	3.50		■ ◇				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 50.0%	30分 程度 -	ほとんど していない 50.0%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 50.0%	30分 程度 50.0%	ほとんど していない -	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.00		■ ◇				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや 高かった	非常に 高かった -	やや 高かった -	適切 であった 100.0%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	4.00		■ ◇				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	ある程度 注意していた	注意する 必要は なかった -	注意 していた 50.0%	ある程度 注意 していた 50.0%	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	4.00		■ ◇				
総 合 評 価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.00		■ ◇				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	4.00		■ ◇				

1 授業の概要、特徴等

現在の高齢者社会において将来働く学生を前提に、家事支援の技法の1つとして位置付けられた授業である。本授業は、調理前の衛生管理をはじめ、7回の調理実習において調理に関する基礎的な知識を学び、技術を習得し、食品の特性、栄養、食品衛生について理解をし、高齢者や障害者の特性に応じた調理について学ぶことを目的としている。また、学修内容を深めるために、事後レポートを毎回課している。

2 アンケート結果に対する見解

授業の初めに、料理の特徴や必要な技術を学生の興味を引くように、デモンストレーションを行った。また、グループダイナミクスを活かすために、1グループ4～5名で構成をし、学生自身が分担を決め、調理実習を行った。また、各学生の事後レポートにフィードバックを行い、学びを深めるように関わったことにより、アンケートの結果につながったと考える。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

毎回の授業態度、調理実習への参加度、授業に目的を理解した調理の取り組み、グループ学生との協力、事後レポートによって総合的に成績評価を行った。事後レポートが評価の40%を占めていたが、提出率が低い学生がおり、単位認定に大きな影響を与えていた。90%以上の学生が、本授業の目標に到達していた。

4 授業改善の方法

レポート回収が、2～3回分まとめた提出であったため、レポート提出率が低い学生がいた。今後は、課題を1回ずつ提出とし、その都度遅れている学生へは、フィードバックを行っていく。ガイダンスでは、調理前の衛生管理を中心に行っていたが、今後は食材の切り方や調味料の軽量の仕方など調理の基礎的技術についても内容を含めていくこととする。

教員による授業アンケート (2015年度 前期)

教員名 : 遠藤 光子 **職名** : 非常勤 **所属** : 専攻科
科目名称 : 生活レクリエーション **科目群** : 専攻科 福祉専攻 専門教育科目
授業コード : 7230 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 3名 **回答者数** : 3名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	-	-	3	-	-	-	-	-	3	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	3.00		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 33.3%	30分 程度 33.3%	ほとんど していない 33.3%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 33.3%	30分 程度 33.3%	ほとんど していない 33.3%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	3.33		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった -	やや 高かった 33.3%	適切 であった 66.7%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	3.00		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	ある程度 注意していた	注意する 必要は なかった -	注意 していた 33.3%	ある程度 注意 していた 66.7%	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	5	3.33		■				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	3.67		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	3.33		■				

1 授業の概要、特徴等

今福祉の中で何故レクリエーション(以後レク)が人々に必要かということの説明を授業の中で繰り返した。楽しい時、嬉しい時を繋いで日々を共有することで仲間の中の自己に気付き他者との繋がりが広がり希望・生きがいにまで高まるレク。個別性を大切にレクの展開をも実施できる豊かな心・知識・技術の持ち主となり、レクを提供できる様、レク材もできるだけ多く体験してもらった。

2 アンケート結果に対する見解

ほぼ毎回授業での学び、内容や感じたことをミニレポとし提出してもらった。それを参考に必要時繰り返しの説明等をした。提出できない学生が授業態度に問題があるということではなかった。説明を聞く前に作りはじめ、結局難しいという学生にも授業後に一緒にする等で諦めないでやり遂げてもらっている。心遣いができる分かる人は他者に教えることで更に能力が高くなる。クラス全体の能力も高めることに繋がる。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

面白いだけでなく、生きがいとなり、自己実現までも援助できるレクにある奥深さ。頭と心で納得してほしい部分は、敢てプリントで渡さず、自身の手で板書を書き写してもらった。期末の学習のまとめでは、ほぼ完璧に書けた学生数名、半数は良好。他の部分で補えている学生も合格。授業後残って数人で教え合い作品を更に工夫して能力の高さを感じた学生は、書くことが苦手なのか?全学生が真面目で今後も頑張れると感じた。

4 授業改善の方法

レク材を特に厳選した。それでも多岐に亘り体験してもらった。授業の早い段階からレクを提供する練習をしてもらった。準備不要で数人から20名以上でもすぐに行えるアイスブレイキングとしても使用できるハンドゲームやソングレクはアレンジしながら繰り返し体験してもらった。又準備に時間をかけ綿密な計画の元、提供するレクの大切さ楽しさも学んでもらった。生活すべてがレクである。